ぎんれい

77

コロナと山行

古 川 進 一

長く続いたコロナもやっと下火になりました。経済的にも大変な損失を与えました。しかし、完全に無くなった訳ではありません。会員の皆さん、油断をしない様にしてください。

最近、会でも山行が少しずつ出来るようになって良かったです。しかし、今年も山の事故は非常に多く、特に中高年齢者に多く、５０代～７０代が５５％を占めています。

当会でも、高齢者が多いので充分に慎重に計画して、天候悪化の兆しが見えたら中止する気持ちで行動してください。

（この原稿を書いているときの４日前には、那須の朝日岳周辺で４人の中高年の男女の死亡事故がありました。天候の急変が原因で、低体温症による死亡事故だった様です)。

目　　次

○　巻 頭 言

コロナと山行	古 川 進 一	1

○　山行報告

両崖山（足利市）	高 橋　忠	4
高谷山（夜叉神峠）	遠 藤 博 昭	7
地蔵岳（1539m 飯豊）	遠 藤 博 昭	9
吾妻連峰 大滝沢	佐 藤 健 一	11
中ノ沢	金 井 秀 明	14
安達太良山	竹内 美穂子	16
日向山（忘年山行）	佐 藤　實	18
会津駒ケ岳	宮 崎　睦	20
五葉山（岩手）	佐久間美智子	23
ミツモチ山	高橋 恵美子	25
八幡平・茶臼山	佐藤　實	27
薄葉沢	金 井 秀 明	29
物語山（西上州）	高 橋　忠	30
火起山・竈山（赤城連山）	内 田 章 子	32
横根山・都室山（イワウチワの群生）	佐久間美智子	34
日暮山（下仁田町）	遠 藤 博 昭	36
古賀志山（宇都宮市）	竹内 美穂子	38
赤城山域 篭山	宮 崎　睦	40
大入道・剣が峰	鈴木 喜久枝	42
石上山・六角牛山（遠野）	高 橋　忠	43
八幡平(2)・安比岳	佐 藤　實	48
三頭山	高橋 恵美子	50

大鳥池（山形県鶴岡市）	内 田 章 子	52
草津白根山 毒水沢	佐 藤 健 一	55
出羽三山への古道「道智道」	佐 藤 健 一	58
○ 南アルプス縦走の思い出	金 井 秀 明	61
○ 思い出の山 分水嶺の山を歩く	古 川 進 一	62
○ 知らなかった郷土史	宮 崎 睦	64
○ 天ぷらそば	金 井 秀 明	22
○ 熊に会ったらどうするか	古 川 進 一	63
○ ふみあと		66
○ 表紙のことば	金 井 秀 明	70
○ 新人紹介		70
○ 編集後記		71
○ 令和五年度役員		71

両崖山（足利市）

高橋　忠

日　　程　令和２年１１月２５日

パーティ　宮崎、佐久間、高橋(忠)

小見川支所 6:00 ～ さいこうふれあいセンター駐車場 8:40 ／出発 8:44・・登山口(常念寺脇) 8:50 ・・観音山 9:10 ・・須永山(202m) 9:19 ・・つる山 9:29 ・・天狗の牙、ゴジラ岩・・かわら山(分岐) 9:59 ・・富士見岩見晴台 10:02 ・・かわら山 10:09 ・・天狗山(258.6m) 10:31 ・・両崖山(251m・足利城跡) 11:25 ・・東屋 11:45 ・・見晴らしテラス 12:20 ・・鏡山 12:58 ・・両崖山城跡 13:06 ・・
噴水広場 13:10 ・・もみじ谷分岐 13:11 ・・織姫公園駐車 13:14 ・・足利織姫神社 13:27 ・・神社下(大鳥居) 13:46 ・・駐車場到着 13:50 ～ 渡良瀬橋 14:09 ～ 足利学校 14:34 ～ 鑁阿寺(ばんなじ) 15:16 ～ 小見川

今回、日帰りで足利市の街中にそびえる両崖山に行って来ました。単独の山ではなく、天狗山など幾つかの山々からなる連山の一つです。ふれあいセンターの駐車場から常念寺脇の登山口、観音山、須永山、つる山、かわら山、天狗山を経て両崖山へ至るコースです。足利市街を一望でき、岩場などもあり、結構楽しめるコースです。

↑富士見岩見晴台

↑天狗山

↓階段の上が両崖山山頂

↓天狗山と両崖山の間の岩場

両崖山の山頂は、足利城の本丸跡で平坦になっています。もみじ谷、織姫公園、織姫神社の境内、七色の鳥居の階段を下って、元の駐車場に戻って来ました。手軽に一周できるハイキングコースなので、ハイカー（登山客）も多いようです。

↑両崖山山頂（足利城本丸跡）

織姫の祈り

←足利織姫神社

七色の鳥居

下山後、渡良瀬橋、渡良瀬橋の歌碑を見て、日本で最も古い学校（上杉憲実が整備した。フランシスコ・ザビエルによって、海外にも紹介された。）、足利学校を見学した。

渡良瀬橋

そのあと、国宝鑁阿寺（ばんなじ）を見学して帰った。

高 谷 山（夜叉神峠）

遠 藤 博 昭

日　　程　令和２年１２月３～４日
パーティ　宮崎、髙橋(忠)、内田、遠藤

小見川を朝６時出発。東関道～中央道～甲府インターで降り、夜叉神峠登山口に着いたのは９時であった。私が２０代の頃初めて山登りに来た所で、ここから先トンネルを抜け、深沢下降点から野呂川を越えて北岳に行ったのだ。今時ここから行く人はまずいないだろう。若さに任せて行ったが、かなりバテバテで登った記憶がある。身支度を済ませて、９時３０分出発。歩き出しは、緩やかなスパンの長いつづら折れの道。ここも何回か登った事があ

り懐かしい道だ。今日は快晴、風も無く穏やかな天気だ。途中２回の休憩を取り、高谷山の分岐に着く、右に行くと少しの登りで峠小屋前に出る。すばらしい景色だ。うっすら雪化粧した白根三山がバーンと真正面に見える。暫くこの景色に酔いしれる。

小休止の後、高谷山へ向かう。来た道を少し戻り分岐から樹林の中を行くと、そんなに傾斜もきつくなく３０分で到着。まだ１１時半、こちらからの景色は、樹林の隙間から見える北岳だけで見晴らしも良くなく、ここの頂上の写真を撮り、峠に戻って昼食にしようと言う事になった。　丁度１２時、峠小屋の前に着く。お湯を沸かして素晴らしい景色を見ながらのコーヒータイム。なんと贅沢な時間だ。みんなも満足そうである。今日の予定はここま

でなので少し長めの休憩。

１３時１０分、名残惜しいが下山にかかる。下りは早く、一時間くらいで登山口へ着いた。荷物を整理して今夜の宿に向かう。１４時３０分に宿に到着。チェックインにはまだ早いので、芦安山岳博物館へ見学に出かけた。近くに行くと知らない人から「さっきまで上にいた人たちですね」と、声をかけられる。「はい」と返事をして中へ入ってみると、何と大きなモニターが在り、峠の小屋前から白根三山が映っている。そうか、ここに私達の昼食風景がずっと映っていたみたいだ。そういえば小屋の前に鉄塔があり何かなと、思っていた。ライブカメラがセットしてあったのだ。今度行くときは注意しよう。しばらく見学して宿へ帰る。

４日　今日も天気がいい。朝の散歩にゆっくりの朝食を済ませて帰路に着く。まっすぐ帰るのも勿体無いので昇仙峡を観光して帰る。

高谷山　山頂(1,842m)

高谷山山頂から北岳→

夜叉神峠から高谷山

夜叉神峠(1,770m)で昼食→

地 蔵 岳（1,539m 飯豊）

遠 藤 博 昭

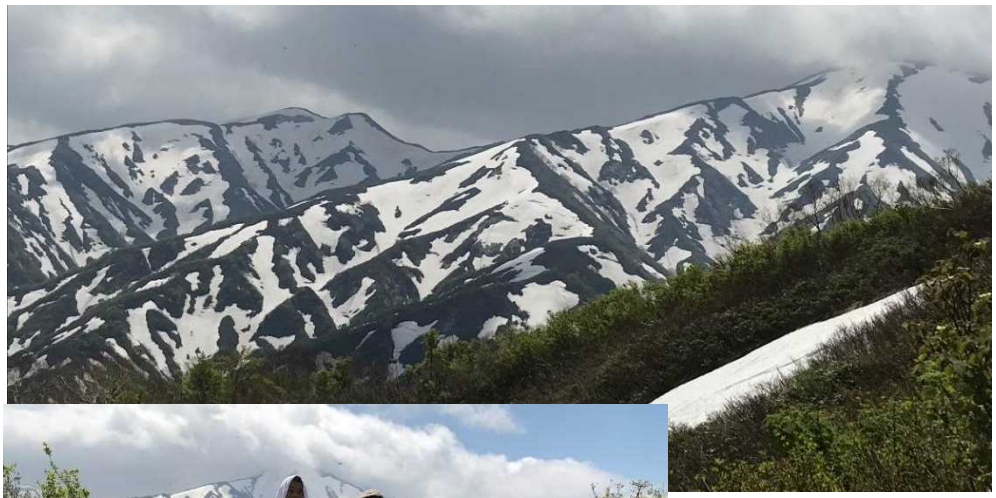
日　　程　令和３年６月１～３日

パーティ　佐藤(實)、高橋(忠)、内田、佐久間、遠藤

小見川を２０時出発、今回は南陽高畠で降り、道の駅「いいで」で仮眠を取る。

白川荘のコテージを予約していたのだが、出発前日に、従業員のコロナ感染の為キャンセルとなった。ダメなら大日杉に泊まろうと、出かけて来る。最初の目的は、五段山へ登るつもりだったが大日杉へ分かれる少し先で、通行止めになっており福島県側には抜けられない。１週間後に開通予定になっていた（下調べ不足だ)。ここから歩いて行くのも大変なので、協議の結果、地蔵岳へ行くことにする。大日杉小屋前、７時４５分出発。ここを登るのは久しぶりだ、いつも釣りばかりでこの小屋へお世話になっている。少し登ると登山道が荒れている。倒木で道が不明良な所もある。この先すぐザンゲ坂の急登になる、長い鎖場が２か所ある。ここを過ぎるともう少しで水場に出る。ここも大きく崩れていて水場へ行くのはかなり危ない。以前は少しの広場になっていたのだが。小休止の後、９時４０分、御田の杉到着。このあたりからコシアブラが採れだす。急登も終わり、道が緩やかになって来ると頂上手前の鞍部に着く。まだ残雪があり、雪の無い所にはカタクリがいっぱい咲いている。内田さんは、ここで止めるという事になり、忠さんが一緒に留まることになった。

鞍部から地蔵岳



３人で地蔵岳山頂へ向かうと３０分ほどの登りで到着。久しぶりの頂上だ。佐久間さんは初めて登ったそうだ。周りの景色を堪能して下山にかかる。鞍部にいる内田さん、忠さんと合流して、本格下山。途中でウドを見つける。美味しそうなのが数本採れた。これで今夜のおかずは心配ない。

大日杉小屋

小屋前到着、１６時１５分。小屋に入ってみると誰も居ない。この時間で居ないと言う事は、今夜は貸し切りかな。荷物を運びこみ、着替えを済ませ寝床の準備をして少しリラックス。採ってきた山菜を仕分けして夕食の準備、よその客がいないので気兼ねなく過ごせる。山菜をつまみにお酒と大変盛り上がった夜になりました。

３日　朝遅くゆっくりと過ごして、１０時過ぎ帰り支度。飯豊町の、しらさぎ荘で入浴後帰宅。

吾妻連峰　大滝沢

佐 藤 健 一

日　　程　令和３年７月１８日
パーティ　金井、高橋(恵)、鈴木、佐藤(健)

大滝沢は「日本の滝１００選」にも選ばれている落差１２０ｍの滑川大滝を有し、上部はきれいなナメ床が続く魅力的な沢です。前年の夏は峠駅まで行ったものの雨にたたられ急遽西吾妻に変更したことから、今年こそリベンジということで同じメンバーで出かけました。

スイッチバック遺構

前と同じように前夜 JR 峠駅の大屋根付き建物の中にテントを張りました。調べてみると、ここは以前スイッチバック用の折り返し線路が敷かれていた場所で、快適な大屋根は豪雪を防ぐスノーシェッドでした。スイッチバック遺構として保存された中に勝手にテントを張っていた訳です。

１５ｍの滝を直登

翌日は天気も良く７：００にスタートし近くの入渓点の橋まで移動。新潟から来たパーティーが先行して入渓し、我々もあとに続きます。１時間ほどで２段１５ｍの滝に到着。上段の滝は右岸側を直登可能ですが、一枚岩で手がかりが少なく高度感もあるので、金井さんがトップを行き３人をザイルで引っ張り上げてもらいました。いつもありがとうございます。

この滝を越えると明るく開けたナメが続き本当に気持ちよく進めました。大きな岩盤が削られてできたと思われるナメで、所どころに見られる風呂釜のような丸い滝つぼが印象的でした。

やがて行く手に大滝が見えてきました。「日本の滝１００選」に選ばれるだけあって見事な滝で落差も大きいですが滝幅も広く、豪快に水しぶきを上げていました。インターネットに滝に打たれる写真があったので、私も真似して滝行に向かいましたが水圧がすごかったので端の方でちょっとだけにとどめました。さすがにこの滝は直登できないため右岸を高巻きましたが、草付の急斜面をトラバースする所が高度感があり最も緊張した場面でした。

滑川大滝

大滝を過ぎてからはまた快適なナメと適度な滝が続き、本当に歩いていて気持ちの良い沢でした。本来であれば最上部まで遡行したいところですが、それには時間が足りずに途中から登山道にエスケープする計画でいたため、右岸の枝沢に入り登山道を探しながら遡上しました。しかし、登山道が枝沢を横切る地点を見落としてしまい、気づいた地点から沢を下ることになり一苦労しました。それでもどうにか細

い踏み跡のような登山道を見つけた時はホッとしました。

登山道を下ってしばらく行くと大滝全体が見える展望台があり、よく見るとウエットスーツを着て滝の落ち口から懸垂下降している人達がいました。なんと、二段になった滝の途中にある滝つぼまで降りて泳いでいるようです！それが目的だったのでしょうか。無謀とも思える行動に驚きました。展望台を過ぎるとあとは一気にくだり無事に滑川温泉に着きました。

大滝の全貌（丸印が途中の滝つぼ）

中 ノ 沢

金 井 秀 明

日　　程　令和３年９月１０～１１日
パーティ　金井、佐藤(健)、鈴木

10 日夜、黒磯の道の駅で仮眠。翌日早朝登山口へ向かう。板室温泉を過ぎ深山湖の一番奥までの道は快適な舗装だが、その先の林道はかなり状態が悪くガタガタであまり通りたくないレベルの道だ。車止めのゲートに到着、すでに２台止まっている。おそらく釣り人だろう。

林道を１時間ほど歩いて三斗小屋宿跡に到着。20 軒以上あった会津中街道の宿場だったが、戊辰戦争で全戸消失、復興するも明治 41 年の大火でまた全戸消失、そして徐々に廃れて昭和 32 年に無人となる・・　となかなか厳しい歴史のある場所だ。ここでゆっくり休憩をとって再び歩き始めるとまもなく登山道に入り河原へ降りる。木橋の先で沢は二股に分かれて、左は人気のある井戸沢だが私たちが行くのは右である。沢用の靴に履き替えて渓流に足を踏み入れる。この最初の一歩はいつも気持ちがいい。今回もいい沢だといいなと思う。

沢は樹林のなかを幅広く穏やかに流れて、水量も豊富だがひざより上は濡れることなく順調に歩いて行ける。しばらくするとナメ床になって清々しい渓相が続く。少しは滝もあるが、ほとんどは１～２メートルのナメ滝なので問題なく快適に越えていく。

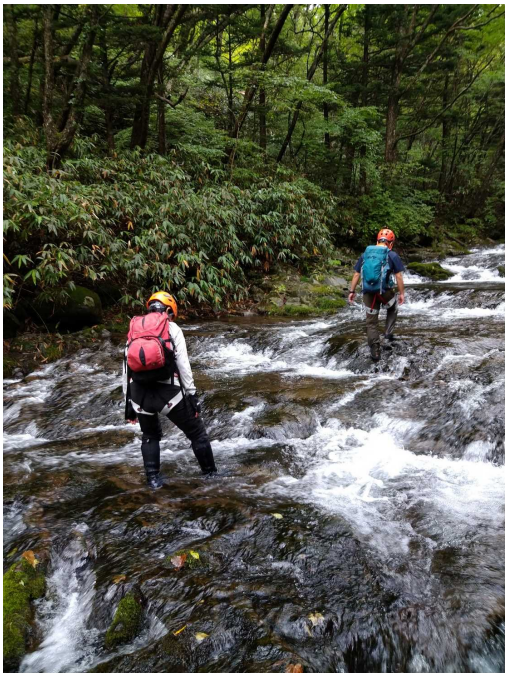
１時間半ほどで峠沢分岐の開けた場所に到着、ゆっくり休憩。大きく樹林が開け流れも穏やかで気持ちのいいところだ。左側の草原の台地はトリカブトがたくさん咲いていたが、もう少し前ならきっといろんな花が咲いていただろう。ここにはなんとかテント一張りできそうな場所もあり、一泊しながらのんびり遡行するのもいいだろうなと思う。

この先から沢はやや狭くなってくるが、またナメが続くので歩きやすい。だんだんと傾斜が強くなってきたナメを、白く水しぶきを上げながら滑り降りていく水流がまぶしい。ナメがおわるとさらに沢は狭くなり平凡なゴーロ歩きとなってくる。両岸からの木々もかぶさってくると終了点も近い。健一さんがスマートウォッチを見て、そろそろ登山道が横切る地点ですよと教えてくれる。

その通りに登山道に出て遡行終了。しかし健一さんのアプリがなければ見落としそうな、登山道というより踏み跡という感じだ。ここからは今回の隠れた目的の三斗小屋温泉へ向かう。小１時間ほど登って汗をかいたころで三

斗小屋に到着、煙草屋にて露天風呂に入浴。那須の山々を目の前にして最高の気分だが、この後２時間くらい下山にかかるなあと少し憂鬱。

　せっかく温泉ですっきりしたのに、また汗をかいて登山口まで下って今回の山は終了。帰りは板室温泉“幸乃湯”でまた汗を流す。ここで有名な綱にぶらさがって入る温泉は女湯の時間だったので残念ながら入れず。鈴木さんに後で様子を聞くとしよう。



中ノ沢のナメ

煙草屋旅館

安 達 太 良 山

竹内 美穂子

日　　程　令和３年１０月１４～１５日
パーティ　宮崎、鈴木、佐久間、竹内

１４日 ２０：００　小見川を出発。磐越自動車道三春ＰＡで仮眠。

１５日 ８：００　奥岳登山口から、あだたら山ロープウェイに乗って、山頂駅へ。１０分の空の旅は、晴天で眼下に雲海を見ることができた。

８：１５　薬師岳山頂へは数分で着き、見上げた空は「ほんとの空」ということにし、登山開始。

８：４５　仙女平の分岐。足元はゴロゴロ石の道が続く。小休憩を数回取りながら進む。

９：４５　安達太良山山頂(1,700m)。すっかり空は灰色に変わり、風も強く吹いている。山頂は、なだらかだが、小さな岩峰が突き出ている。これが別名「乳首山」だ。とりあえず登っておく。３６０°のパノラマは残念ながら望めず、山頂広場で小休憩。

１０：３０　中の背。沼ノ平火口は、強風とガスで何も見えず。想像してみよう。深さ１５０ｍ、直径１ｋｍの爆裂火口跡を。荒涼とした月のような・・・が現実は、すさまじい強風で帽子のつばがびしびし顔面を打つは、前は見えないは、あげくのはてに、サングラスが吹き飛ばされる。あきらめかけて前へ進もうとした時、足元にサングラスが戻って来る。

１１：００　峰ノ辻。昼食を取り大休憩。紅葉は後半に入ったせいなのか鮮やかさに欠ける。

１２：１５　くりがね小屋。軒先に吊された黒い鐘を見る。小休憩しながら、紅葉を楽しむ。馬車道として整備された歩き易い道を下山。

１３：４５　奥岳登山口に到着。

天気がめまぐるしく変わり、強風の恐ろしさを体感した山行だった。

あだたらやまロープウェイ

安達太良山 山頂

日 向 山（忘年山行）

佐 藤　實

日　　程　令和３年１２月１～３日

パーティ　遠藤、高橋（忠）、宮崎、内田、佐久間、佐藤（實）

ＡＭ１時過ぎに、北杜市の道の駅「はくしゅう」に着いた。風が結構強く寒いので、売店横のテラスにテントを張り、仮眠の宿とする。

２日　最短コースの矢立山登山口迄は、狭いながらも舗装された道を車で行くと先行車が２，３台。無理無理１０台位のスペースがありました。

明るく背の高い樹林帯と、下草の低い笹の中を登山道がゆるやかに続いている。ワイワイと登ると言うよりも、付かず離れず、皆それぞれの関係とペースで歩いて行くのも、いつもの風景です。

紅葉も終り枝だけのからまつ林を過ぎて、一休みの後少しで、白砂の広場にひょっこりと出た。平らっぽいけど滑り落ちそうな斜面の山頂からは、八ヶ岳連峰が目前にせまり、背中には甲斐駒がそびえ立つ所。

思い思いに写真を撮り、しばらく遊んでいると後続のパーティが来たので、下山にかかる。

帰路、尾白川渓谷を千ヶ淵までブラついて、尾白の湯温泉に向かう。

今日の宿は、名前が変わった「画家の宿」志満屋旅館さん。多くの画家がアトリエ代わりに逗留していたとの事で、玄関から迷路のような回り廊下に至る迄、様々な絵が飾られていて、素人の品定めを楽しめました。

夕食は忘年山行なので、ごちそうとお酒が沢山。計画をしてくれた遠藤さんと皆さんに、乾杯です。

３日　窓から朝の甲斐駒が

大きく見えた。朝焼けの駒が見られるのかと思い男衆４人で散歩がてら外に出ると結構寒く、羽毛服がありがたく自分も歳をとったなと思う。撮影スポットを捜して、日野春駅前から歩くも、
いい所がない。結局、山も赤くならず早々に宿に戻り、朝食をいただく。

忘年山行のお決まりと言える「ゆったり計画」は、近年、他の山行にも行き渡った感があるが、今日の予定は白紙の為、とりあえず清春芸術村を見学に行く。桜の古木の向こうに峰々。春は最高かも知れません。

渋滞を考慮して、北関回りを選択。小諸方面に向い、野辺山周辺で車を停めて快晴の八ヶ岳をしばらく眺めていた。皆それぞれにある回想を八ヶ岳は、どんなだろう。

懐古園の入口にある、大きなおソバ屋さんで、おいしい昼食をとり、紅葉まつりが終えた晩秋の「小諸なる　古城のほとり・・・」を散策して、帰路に着いた。

日向山山頂　1,660m

←甲斐駒ヶ岳

尾白川渓谷千ヶ淵

↑八ヶ岳連峰

会津駒ヶ岳

宮 崎　睦

日　　程　令和４年５月５～７日
パーティ　宮崎

ゴールデンウィークであったが、いつも岩魚釣り等で宿泊している桧枝岐のかわばたキャンプ場のバンガローにキャンセルが有り、天気予報も良さそうなので、予約すると大丈夫なので行きました。

会津駒ヶ岳は体力的にもう無理だと思い､燧ケ岳に行こうと思いましたが、例年ですとゴールデンウィークには御池まで通行止めが解除になりますが、今年も除雪は完了しているが、積雪が多く雪崩の危険が有るので解除にならないとの事でしたので、会津駒ケ岳に変更しての山行となりました。

会津駒ヶ岳は、残雪の５月に山スキー、ハクサンこざくらの咲く７月、９月の沢登り、紅葉の１０月下旬などに７回位登っています。

５日に南会津町道の駅「番屋」に２０時３０分頃に到着すると、車中泊の車がゴールデンウィークのため、１０台位駐車していた。

５時前に道の駅を出て、桧枝岐村の道の駅先の会津駒ヶ岳の駐車場に到着すると、すでに２０台位駐車しており、旧テニスコートの所も駐車場になっています。

国道から先の林道は冬季通行止めで、直ぐに残雪が出てきて、日当たりの良い所は一部解けている所も有りましたが、舗装してある林道のほとんどは残雪がありました。

林道の途中から、ショートカットの登山道を行く予定であったが、登り口のテープを見落としてしまい、そのまま林道を歩いて階段の有る滝沢登山口に到着です。

休息後に木製の階段を登り、登山道を歩いて行くと、共同アンテナ手前の急登付近から積雪が出てきたので、アイゼン（１０本）を着装して歩きました。

やはりネットで見たとおり、前爪のあるアイゼンで登らないと、積雪が深いので潜ってしまいます。

後ろから来た若者はチェーンアイゼンで、体力が有るので潜りながら登っていきましたが、女性の方はだいぶ苦しそうでした。

急な登りが続くため呼吸も苦しくなり喘ぎながらの歩きで､当初の計画は、山頂までは体力的に無理なので、森林限界位まで行ければ良いと思っていました。

１１時に、どの位の所まで行け、それから先まで登る体力が残っているのかで、山頂まで行くかを判断することにして歩き、何とか山頂まで行くこと

ができ嬉しかったです。
　山頂は風も無く、晴れており中門岳まで行く人などを見ながら眺望を楽しみ、ゆっくりと休息できました。
　前回は高橋(忠)さんなどと、山スキーで来た時は吹雪いており、板のシールを飛ばされないように剥がし、滑走準備するのが大変だったことを思うと、格段の差です。
　山頂には、途中で抜かされたボードの若者２名がおり、昨日は鳥海山を祓川へ滑り、明日は西吾妻を滑るという事で体力が有るのがうらやましい限りです。
　駒の小屋も営業しているので、下山の時に登って来る登山者もおり、30 名位の人と会いましたが、山スキーヤーは登る途中で滑り降りてきた２名だけで、以前よりだいぶ少なくなっている様に感じました。

下山はアイゼンが効いて無雪期よりもスムーズに歩け、苦労せずに滝沢登山口に到着、ショートカットのルートで下山して駐車場に到着する。
　今宵の宿の、かわばたキャンプ場はテント場も大勢の人がおり、除雪した残雪が小山になっており、満開の山桜とのコントラストが綺麗であった。
　疲れて釣りをする気力も無かったので、御池への入口となる七入まで桧枝岐川の状況を見に行くが、どこも雪解け水で濁流となっており、ルアーでの釣りもできるポイントはなさそうであった。
　燧の湯に 16 時頃行くと空いており、露天風呂で満開の山桜を見ながら、ゆっくりと疲れを癒しました。
　疲れているので、アルコールの飲む量も進まずに眠くなり早々に就寝。翌日は５時過ぎに起床し、村の診療所脇の、除雪した雪の捨て場になっている所から、滑らないように雪の上を歩いて桧枝岐川に降り、寒くて手もかじかんでしまいながら、ルアーを何回か投入するとやっと１匹釣れました。しかし寒くて釣りする気力も無くなり早々に終了し、キャンプ場に帰り岩魚はキャンプ場の池にリリース。

バンガローに宿泊すると無料の温泉券を貸してくれるので、朝食後いつものように燧の湯で朝風呂に入り帰宅しました。

駐車場	６：１５
林道入口	６：１９
滝沢登山口	７：００
山頂	１１：３２～１２：０９
滝沢登山口	１４：０３
林道入口	１４：２２
駐車場	１４：２５

天ぷらそば

金 井 秀 明

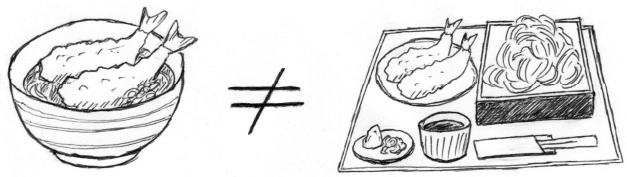
登山もおわりが近づき下山にかかってくると、街へ降りたら何を食べようか、というのが大きな楽しみです。たいていは山国ならではの料理があるはずで、山菜料理や川魚、さらにはソースカツ丼なども食欲をそそりますね。

以前、北アルプスを縦走して下山中に、無性にざるそばが食べたくなりました。駅前に着いて蕎麦屋を見つけました。老舗っぽいいい感じの店構えで期待がふくらみます。そうだ、てんぷらも頼もうと頭に浮かび、店に入ってさっそく注文しました。

「天ぷらそばひとつ！」

出てきたそばを見て大ショック！　丼に入った熱々のそばの上にえび天が２個乗っています。食べたかったのは冷たいざるそばだったのに・・・

天ざると天ぷらそば、それからは二度と間違えなくなりました。



五 葉 山（岩手）

佐久間 美智子

日　　程　令和４年５月１１～１３日

パーティ　遠藤、佐藤(實)、高橋(忠)、内田、佐久間

５月１１日　道の駅「三滝堂」（宮城県登米市）で仮眠。

５月１２日　五葉山は、伊達藩の直轄領である御用山であったことから、五葉山と呼ばれるようになった（諸説有り）。ふもとからも海からも見えるこの山は、皆に愛されているとのこと。登らせてもらいます。

鳥居が建っている赤坂峠登山口から登る。ほどなく１合目の標識。実は私、これ苦手。「あーまだ〇合目なの」「えーまだ・・・」と、ついつい意識してしまう。でも、８，９合目の数字が見えたら頑張れる。自分勝手ですね。

４合目に畳３帖くらいの大きさの石がドーンと横たわっていた。畳石である。その先は林の中にも大きな石がたくさん見られた。７合目には祠や鳥居がいくつか見られ、改めて山の神様、海の神様の山なんだと合掌。

９合目になった頃、石楠花山荘の赤い屋根が見えた時は、うれしかった。山荘は大きな木造の山小屋。周りにはテーブル、トイレ、水場もある。三陸海岸も見えるテーブルで、気持ちの良いランチ。

内田さんが、ここに残るというので、４人で空身で山頂を目指す。日枝神社に寄り、両サイドをロープで仕切られた平らな道を行く。県立自然公園に指定されているのだ。山頂(1,341m)は、なだらかなその道の途中にあった。さらにその先の、五葉山より高い日の出岩(1,351m)へ。尖った岩に恐る恐るへばりついて、スリルを味わう。

同じ道を降りて、今日は、陸前高田市の民宿「むさし」でのんびりと。

５月１３日　奇跡の一本松、碁石海岸、穴通磯を巡って帰途。遠くまで連れて行ってくれた皆さんに感謝です。

【行　動　記　録】

赤坂峠駐車場 － 畳 石 － 石楠花荘 － 五葉山
8:40　10:04　12:14　13:10
12:54

日の出岩 － 五葉山 － 石楠花山荘 － 畳石 － 駐車場
13:19　13:33　13:46　14:45　15:50
13:58　13:58

畳石

日の出岩

五葉山山頂

ミツモチ山

高橋 恵美子

日　　程　令和４年６月４日
パーティ　金井、佐藤(健)、鈴木、高橋(恵)

健康だけが自慢だった自分が、この歳になって、まさか体調不良で一年近くも山から離れるとは思いもしなかった。人生、何があるかわからない。

復帰第一戦は何処にしようか。しばらく歩いていないのでどこまで歩けるか不安が大きい。できれば１、２時間位で登れて、あまりきつくなくて、新緑がきれいな山だと尚更良いと選んだのが、ミツモチ山。ここ数年毎年のように出かけている高原山。頂上に向かう途中の案内板に書かれた『ミツモチ』の文字。カタカナの山名は珍しいので記憶に残るが、行く機会は無かったのでちょうど良い。鈴木さん、金井さん、佐藤(健)さんが付き合ってくれる事になり不安も解消。

シロヤシオのシーズン真っ盛り、大間々の駐車場は既に満車に違いないと小間々からスタート。小１時間ほど余計にかかるが新緑がきれいで苦にはならない。大間々駐車場から１０分ほどでミツモチ山ヤシオコースの分岐に着く。ここから緩く下って行き、小さな沢を渡ると登りになる。周囲の森は広葉樹が多く、紅葉の頃はさぞかし綺麗に違いない。山腹を絡むように進んでいくと大丸に着く。

この辺りはアカヤシオの名所、もう花の時期は過ぎてしまったが群落の規模は結構大きく、辺り一面ピンクに染まるところを想像してみる。いつか見に来られるチャンスはあるだろうか？　大きな標識の前を右折、頂上に向かう。立派な展望台を過ぎると大きな岩のある山頂らしくないミツモチ山頂に到着。登り切った所が頂上、という感じではない。

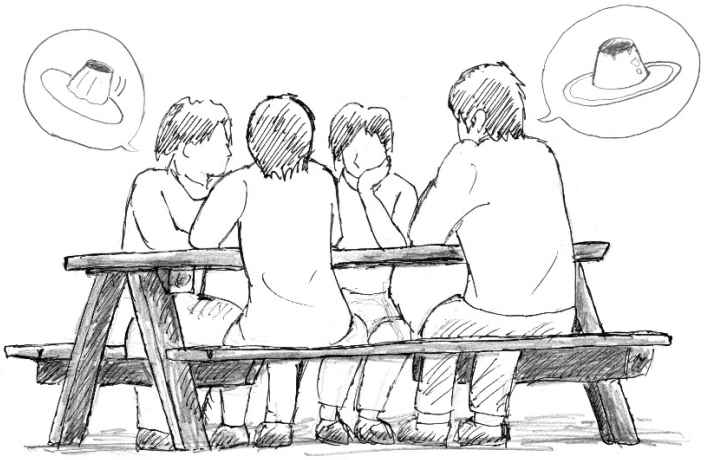
頂上から一下りで県民の森からのコースと青空コースの分岐となる広場に出、昼休憩。天気も良く、大きなテーブル付きのベンチで、佐藤さんの入れてくれた美味しいコーヒーを頂き至福のひと時。話題はなぜかプリンに。プッチンプリンが一番だと言う佐藤さんを、君はホントのプリンを知らない！と、あーだ、こーだと３人で攻撃。いい歳のおじさんおばさんが、どうでもいいような話で暫し盛り上がり、楽しい大休憩となりました。

帰りは青空コース。車が通れそうな幅広い砂利道を登っていく。下山なのになぜか登っていく。周囲にあるのはシロヤシオのはずだが、花はポツポツ付いている程度。途中にもほとんど見られなかった。来るのが少し遅かったのかもしれないけど、やっぱり今年はハズレのよう。去年が素晴らしすぎた

のだ。金井さん佐藤さんに満開のシロヤシオを見てほしかったのに、残念！それでも見晴らしの良い笹原の中の道はとても気持ちが良い。

八海山神社方面に向かう道に合流すると間もなく大間々駐車場。駐車場下の広場はレンゲツツジの名所。見頃の時期だったが、花の数が少ないように思える。よくよく見ると一株一株に枯れ枝が多い。その先小間々までの道沿いには、所々樹木の名が書かれたプレートが付けられている。たくさんの種類があるモミジの違いをどう覚えたらいいか等、金井さんの講義を受けながら楽しく下ったのでした

終始、私のペースに付き合ってくれた３人に感謝。期待したシロヤシオはほとんど見られなかったけれど、やっぱり山はいいね！　癒されました。



八 幡 平 ・ 茶 臼 岳

佐 藤　實

日　　程　令和４年６月７～１０日

パーティ　遠藤、髙橋(忠)、内田、佐久間、佐藤(實)

八幡平は観光道路のおかげで駐車場から３０分で頂上に立つことが出来、ピーク優先の百名山好きの人にも、拍子抜けするか、得した気分になる山です。自分も秋田の森吉山の帰りに寄り、八幡平は行った事のある山に数えていた輩であります。

山スキーには遠くてハードルが高く、沢や東北山行計画にもなりにくい山域でした。そんな中、遠藤さんの「茶臼山荘、一点豪華(主義)＋α計画」で、八幡平をめぐる山旅に行ける事になりました。

８日　アスピーテラインを走り、見返り峠に向かう。ここに来る大多数の人は、ドラゴンアイを見に来た人だと思う。自分の楽しみは、峠の先から大深沢流域を眺める事。足元の伝左エ門沢を下降。湯の又沢手前にあると言う格好の野湯に入り、釣りをする妄想も期限切れだが、大深沢は、見ているだけでいやされます。

みんなでドラゴンアイを見に行く。頂上周遊コースを回り、ガマ沼の美しさと八幡沼を見て、車に戻る。

黒谷地湿原入口から入山。今や年一回しか出番のない６０ℓザックを背負い、初仕事は、熊の泉で水３ℓを汲み上げること。背負ってしまえば、何とかなるものだ。

水芭蕉にいやされ黒谷地湿原の木道テラスで一休み。７月は日光キスゲが咲き、秋は見渡す限り、キツネ色の草紅葉の世界になるそうです。

大小の石がゴロゴロで歩きづらい道を抜けて、コースタイムから大巾遅れで、茶臼山荘に着いた。重荷から解放されて、足がふわふわする。

小屋はきれいで無人、貸切。バイオトイレ１００点。テラスからは岩手山、早池峰、他。遠藤さんも１００点です。

広い部屋を一杯に使い、みんなが料理人で、ごちそうが出来上がる、気の置けない仲間での会食は、時の流れを忘れそう。ご想像どおりの夜になりました。

９日　快晴　朝のテラスで、御来光と岩手山に、ご挨拶。

今日は、残雪のアオモリトドマツ林を下り、また登り返して恵比須森に向かい、それから大黒森へ。全て明るい樹林帯の中を行く。帰り、熊の泉に行き、水を確保して山荘に戻り着く。

一段落の後、遠藤さん、佐久間さんと３人で山菜採りに出て、茶臼口方面に下り、雪渓手前で上物を見付けて夕食に一品が添えられました。

二晩目の夜も､皆､ごきげんで笑顔と話の尽きない時間が流れていきます。

１０日　３：５０　窓の外が白み始めて、又モルゲンロートになりそうで遠藤さん、佐久間さんとベランダに出た。雲海の上の空をピンクからイエロー、茜色に変えて、太陽が昇って来ました。

朝食前に、茶臼岳に登りたく思い、全員で出かけた。文字通り朝飯前と言う事で、山頂からは朝日を浴びた岩手山が更に大きく、旧友のような山々が見渡せました。

ゆっくりと朝食を済ませ、山荘を掃き清めて、少し軽くなったザックで足取りも軽く、黒谷地湿原口へと下山です。

樹海ラインを走り、松川温泉に寄り、帰途につきました。

薄 葉 沢

金 井 秀 明

日　　程　令和４年７月９日

パーティ　金井、佐藤(健)、高橋(恵)、鈴木

日帰りで簡単な沢を探していたらこの沢が見つかった。日立中央インター―から東へ進み国道 349 号を北上、小中町という集落の右手の山に薄葉沢がある。町はずれの里山といったところで、本当にこんなところに沢登りの対象となるような沢があるのかと半信半疑で林道を進む。

車道が終わったところから林道を歩き始める。林道の左下には渓流が現れ 10 分ほど進んでいくと沢へ降りていく小道があり、ここらで入渓するのが良さそうだ。沢に入ってみると水量もまあまあで小滝が続き、しっかりと沢歩きの対象になると感じられる。丹沢あたりのレベルの低いところと同じくらいか。違和感があるのは水がぬるいことだ。標高が低いので仕方ないのだろう。

ひざくらいまである水流の中を進んでいくと次々と数メートルの小滝が現れてくる。一応、塩の草の滝・薬研の滝・薄葉沢の滝・早瀬の滝と名前がついている滝が続いているのだが、他にもけっこう小滝があるのでどれがどの滝だかよくわからない。それでもほとんど直登できるので楽しい。

沢の右手にはずーっと林道が続いている。高橋さんと鈴木さんはまだ沢へ入らずに林道を歩いている。この先の流れが穏やかになったところから入るようだ。

沢沿いに道があるのでどこでも出入りできるし下山もすぐできるので、これは安心な沢だなあと思う。

中流の穏やかな渓相の岸で合流して休憩、お茶タイムとなる。思ったよりいい沢だなあとみんなで言っていたが、高橋さん鈴木さんはこのまま林道を行くとのこと。

沢はやや狭くなり、滝も規模は小さいながらナメ滝・CS 滝と変化に富む。大き目の釜のある滑り滝を超えるとアッパガ淵というこの沢一番の釜に出会う。ここを過ぎて小滝をいくつか超えるとそろそろ沢も終わりだ。急にヤブに覆われてしまい、それをかきわけて進むと、なんと田んぼに出てしまった。まさか田んぼにでるなんて。里山の沢はおそろしい。

遡行終了後はすぐ林道にでて下山。小一時間で車に戻る。良い沢であったが、こういう里山の沢はもう少し寒い時期の方がいいのかもしれない。

物 語 山（西上州）

高 橋　忠

日　　程 令和４年１２月１～２日

パーティ 遠藤、佐藤(實)、宮崎、内田、髙橋(忠)

「物語」という山の名前に惹かれて、今年の忘年山行は西上州・物語山に決定。小見川支所を朝５時に出発。サン・スポーツランド下仁田の駐車場（無料）に車を停め、９：２０出発。

登山口までルートタイム１：２０の林道歩き(以前はかなり先まで車で行けたみたいだが)。「物語山 徒歩５５分」という標識を過ぎた辺りから、切り立った「メンベ岩」が見える。

メンベ（メンバ）とは、地元で、うどんを作るまな板のことを言うらしく、垂直に切り立った大きな岩だ。

戦国時代末期、豊臣方に攻められた落ち武者が、メンベ岩の上に上がり、追っ手に捕まらないようにツルを全て切り、切腹して自決した。また、落ち武者が金銀の財宝をメンベ岩に埋蔵して死んだという物語（伝説）がある。この言い伝えから、「物語山」という名前が付けられたということらしい。全然想像していたロマンチックな山ではない。

１０：３６ 登山口到着。ここから本格的なトレイルへ。いきなり急登が始まる、かなりの急登だ。汗が噴き出る。杉木立の間を抜け、途中振り返ると荒船山がよく見える。ザレた登りが始まるところからさらに胸突き八丁。やがて、西峰と物語山の分岐である、鞍部に到着。ここで少し休憩をしてさらに物語山へと進む。あと少しだ、ファイト！　後方、浅間山がくっきりと見える。浅間山に後押しされながら、痩せ尾根を登り、ついに１２：１８山頂到着。ここで記念写真を撮り、南峰に移動。休憩場所にちょうど良い。ここからは妙義山がよく見える。お湯を沸かして、コーヒーを飲みながら昼食タイム。忘年山行なので、軽く登って、夜の宴会を楽しもうと思っていたが、考えが甘

かった。登山口からこんなに急登だとは予想外であった。
　帰りに、西峰に寄ろうかと思ったがパスして下山。激下りで要注意だ。登山口からまた林道歩き。林道歩きも飽きた頃、１４：５８ 駐車場到着。

　宿泊先の、いこい山荘（軽井沢町）に向かう。軽井沢はホテルが多く、旅館がなかなか見つからずやっと見つけた旅館。受付に行くと日本語が話せるスリランカ人の男性が二人、というか、この二人しかいない。ちょっと不安だ。夕食は、鍋。やたらと量は多いが、味はちょっと微妙かな。部屋に戻って二次会。夜遅くまで、年忘れ！楽しみました。
翌日は、旧軽井沢の町を散策。トリックアート館を見学したり、お土産を物色したりと楽しい一日を過ごして、帰って来ました。

火起山（ひおこしやま）・竈山（かまどやま）（赤城連山）

内田章子

日　　程　令和５年２月１６～１７日

パーティ　遠藤、髙橋（忠）、佐藤（實）、内田

コロナ禍でスノーシュー山行も出来ず、久々に雪の上を歩きたくなったので、遠藤さん案の赤城の鍋割山に決まる。

２月１６日朝 ６：００ 小見川を出発。　出発点の姫百合駐車場は雪と凍っている所とまばら。私だけ早々チェーンスパイクを着ける。

登山口からは樹林帯に入るので、登山道は雪が多くなってくる。途中、遠藤さん、忠さんもお初のチェーンスパイクを装着する。今回が三人共、チェーンスパイクで歩くのは初めてだ。装着も簡単だし軽くて歩き良い。が、雪の団子が付き易いので、それさえ気をつければ優れものかも。

炭焼き窯跡、荒山風穴を過ぎ、荒山高原到着。広々した荒山高原は一面の雪。記念写真を撮った看板を見て思い出した。長七郎山に登った帰りに、ここ荒山高原まで来たのだった。あの時は赤いヤマツツジが沢山咲いて綺麗だったが、今日は木々に付いた真っ白な雪が、花のようでとても素敵。

この先は雪が深くなりそうなので、私だけ８本歯アイゼンに履き替える。登るにつれ、展望が開けてくる。火起山への稜線に出ると「すごい！」近くにいくつか登っている赤城の山々はもちろんのこと、日光白根山・谷川連峰が雪を被って連なり、遠く北アルプスも。

風はなく、空は高く真っ青で雲一つ無い。どこにも雲が見当たらないのが、物足りなくなるほどの快晴だ。「素晴らしいね」を三人で連発。

竈山まで行くと榛名山の奥に、真っ白に聳えて見える浅間山がくっきりと。３６０度ぐるりと見渡すと、うっすら富士山まで。

目的は鍋割山だが、竈山から見ると、なだらかに丸さを帯びた鍋割山が低く感じられる。戻って来た人に聞くと「下に街が良く見えますよ」と言う。それならば、四方の山々を見渡せるこの竈山の山頂までにしようと言う事になり、ゆっくりお昼を兼ねて大休止となる。

名残惜しいほどの稜線を、戻る途中に出会った地元の登山者に「いい日に来ましたね」と言われる。

残念ながら足の具合が悪く、駐車場で待っている佐藤さんのもとへと急ぎ下る。

もう一つの楽しみは、何度か宿泊してお気に入りの秘湯「滝沢温泉・滝沢館」でのお泊りだ。ゆったりと、温泉に浸かり、美味しい料理に舌鼓。そし

て、部屋に戻って、二次会。楽しかった今日一日に、話も弾み夜が更けていく。

翌１７日　３度目の富弘美術館、２度目の足尾銅山を見学し、日光田母沢御用邸記念公園に立ち寄る。旧御用邸の建物、庭園などを見学して、帰宅の途に。

横 根 山 ・ 都 室 山（つむろさん）

～イワウチワの群生を求めて～

佐久間 美智子

日　　程　令和５年３月２９日

パーティ　宮崎、鈴木、竹内、佐久間

花貫さくら公園の駐車場から、踏み跡のある道を歩き出す。

少し急登の尾根を登っていると、イワウチワ（岩団扇）がポツポツ見え始めた。登るごとにポツポツがびっしりという言葉になっていく。ピンクの花を付けた小さなイワウチワが群生して咲いているのは、それはみごと。イワウチワカーペット？ イワウチワロード？ を歩いているよう。

私は幸せなことに３年連続して見ることができた。１回目はここ横根山・都室山（令和３年４月１日、宮崎・内田・遠藤・高橋忠、佐久間の５名）、２回目は盛金富士（令和４年４月６日、宮崎・竹内・佐久間の３名、群生は少なかった）、そして今回また横根山・都室山。イワウチワ初めての竹内さん、横根山(389m)初めての鈴木さんの「うわ～」「きれい！」の声に、私は自分の山でもないのに「どうよ！」と、３回目の貫禄。二人の笑顔がうれしい。

樹木の下や登山道の両脇を埋め尽くすイワウチワは春の妖精。花言葉は春の使者。まさにその通りだと思いながら立ち止まり手で触り、立ち止まり写真を撮っているうちに山頂手前の沢尻十字路。沢尻湿原で水芭蕉を見て、都室山(449.4m)へ向かう。

途中“休んでって！とは岩ない岩”と書かれた板が立っていて、そばに座って休むのに丁度良い石があった。このほっこりする言葉に元気をもらい山頂へ。ゆっくり休み、名馬里ヶ淵へ下るルートで下山。この道にもイワウチワは沢山咲いていて、最後まで期待以上。桜、イワウチワ、ミズバショウと花づくしの一日でした。

皆さんも春の妖精に会いに行きませんか。イワウチワの開花を調べ、計画をしてくれた宮崎さん、ありがとうございました。

←横根山の尾根

都室山から
下山の尾根→

日　暮　山（下仁田町）

遠 藤 博 昭

日　　程　令和５年４月１３～１４日

パーティ　高橋（忠）、佐藤（實）、内田、遠藤

小見川を出発、北関東道～上信越道を走り、下仁田で降り道の駅下仁田で仮眠を取る。登山口の小平集落へ来ると桜が満開だ。しだれ桜が多く各家の前に植えてあり、とても綺麗だ。集会所の前に登山者駐車場と有り、ここに車を置く。車でもっと先まで行ったのだが、だんだんと道が狭くなり崩れた跡などもあって無理せずに戻って来た。8 時 30 分出発。集会場前から歩き出し、少し高台に来ると対岸の小高い丘に桜がいっぱい咲いており見事である。集落を抜けて少し行くと開けた段々畑の様な所に出る。一番上まで行くと、右へ日暮山の看板。しばらく林道歩きの後、10 時に登山口到着。林道も終わりカラマツ林の中を行く。小さい尾根を一つ越えるとここから急登の始まり。かなりきついのでロープを張って登る。何度か繰り返しようやく登りきる。頂上着 12 時 50 分、狭い藪の中である。少し先に行くと開けた所があり見晴らしが良い。下に上信越道が見える。その上に妙義山のゴツゴツした山並みも良く見える。頂上に戻りゆっくりとティータイムを楽しむ。

14 時、下山にかかる。下りもロープを張って降りる。かなりの傾斜で滑りやすいので、慎重に降りる。数回繰り返して、緩くなった一つ目の尾根に到着。ここでほっと一息休憩。ロープとカラビナをしまい、ここからは周りの景色を見ながらののんびり歩きだ。登山口到着 15 時 30 分。後は林道歩きで道の脇に咲いている花などを鑑賞しながら歩く。16 時 40 分、駐車場に到着。その後昔、会のバス山行で行った「あらふねの湯」で入浴後に帰宅。

ﾋﾄﾘｼｽﾞｶ(一人静)

古 賀 志 山（宇都宮市）

竹内 美穂子

日　　程　令和５年４月１４日
パーティ　宮崎、佐久間、竹内

６：００　小見川を出発。

８：５０　宇都宮市森林公園駐車場到着。

９：１２　中尾根コース登り口から登山開始。急な尾根登りが続くなか、カタクリの群落の斜面であることに気づく。花はほとんど終わっていて残念である。所々に小さな岩場とアップダウンを繰り返す。ヤシオツツジが至る所で咲いている。

１１：３０　富士見峠。

１１：４８　古賀志山（582.8m）山頂。広場になっていて、途中では登山者にほとんど会わなかったのに、賑わっている。春の陽光の下、筍ご飯のおにぎりを３人で味わう。

１２：３０まで休憩し、御嶽山に向かう。

１２：５０　御嶽山(560m)。大きな岩場をよじ登り、見晴らしの良い場所に出た。少し霞んでいたが、今日１番の眺望。日光連山を確かめることができた。

１３：０５　赤川ダムを経由しての下山開始。木もれ日の中、小休憩をしながら歩く。赤川ダムに着くと、今まさに盛りの八重桜並木。

１４：４６　宇都宮市森林公園駐車場に到着。

春らんまんの山行であった。

赤城山域 篭 山

宮 崎　睦

日　　程　令和５年４月２１～２２日

パーティ　宮崎

２１日道の駅「くろほね・やまびこ」にて前泊する。

利平茶屋公園の駐車場に５時半頃に到着すると、駐車場周囲の山桜は満開で、先着の車は５台有り、準備している間にも３台位来ました。

インターネットでアカヤシオが綺麗な山と話題になっており、土曜日なので登山者は多くなりそうである。

今日は昨日と変わり、一時的に冬型となるので寒くなり風も少し強くなるが、天候は晴の予報です。

駐車場先の道路は二股に分岐し、登山道への取り付き口は良く分からなかったので、準備している時に後着した、高崎市のパーティに聞いてから出発する。

登山口は、キャンプ場への道路を少し歩いた、ミニ水力発電所の手前を右に入った所で、登山道の取り付きから急登を鳥居峠分岐まで登り詰めるコースであった。

１５分位歩くとアカヤシオの木が出てきて、少し散っていますが、花数はネットの情報の通り多いようです。

登山道に道標は数箇所しかなかったが、途中には赤テープも有り迷うことは無く、急登の連続で細尾根の所も有り、風も強かったので慎重に歩きまし

た。
　アカヤシオは満開で、タイミング的にはジャストで写真を撮るのも忙しく、急登は余り苦にならなかった。
　鳥居峠への分岐から篭岩山頂までは少しの登り、そこからは激下りとなり、途中では覚満淵や大沼が眺望できた。

　鳥居峠に到着すると、多くの観光客や登山者がいたが、峠のため風が強いので建物脇の風除けとなる場所を探して休息を取る。
　計画通り周回コースで下山する。鳥居峠からの下山路の取り付き口が良く分からずウロウロとしてしまい、時間のロスとなってしまったが、建物で死角になっている林道を少し下ったところが下山路であった。
　計画では、今回の下山路よりも少し先の、余り整備されていないコースを下山する予定であったが、登りで疲れてしまい、見事なアカヤシオも鑑賞できたので、手前のコースで下山した。
　コースは急な下り坂ではあるが、トラバース道で歩きやすいコースで、下山するにつれて、アカヤシオでピンク色に染まった山を眺望しながらの歩きとなった。
　途中では、登って来るパーティと多くすれ違い、駐車場に到着すると駐車車両が 50 台位有った。

　利平茶屋駐車場 5:55 ～ 鳥居峠分岐 7:45 ～ 篭山 7:58 ～
鳥居峠 8:06-8:42 ～ 利平茶屋分岐 8:46 ～ 利平茶屋駐車場 9:50

大入道・剣が峰

鈴木 喜久枝

日　　程　令和５年５月２６日
パーティ　宮崎、高橋(恵)、佐久間、鈴木

大入道のシロヤシオが、今年はすごい事になっているらしい。何年か前歩いた時（花の時期ではなかったが）シロヤシオの木がたくさんあって「これが咲いたら凄いよね。絶対来ようね」と話した記憶がある。２年前の当たり年に行った時、大小の木々が見事に満開のシロヤシオ。その素晴らしさに驚き、感動した。なのに今年は、更に凄い‼　数十年に一度‼なんて聞いたら、どれだけ凄いの？　もう行くしかないじゃない。
しかし、心配は完治していない左膝。私だけ大入道から引き返すという事で参加させて頂く。

２６日早朝、小見川を出発。小間々駐車場からスタートする。新緑の中、真っ赤な山ツツジを愛でながら１時間２０分位で大入道だ。やっぱり当たり年、一面シロヤシオの世界だ。大休止して、私だけ引き返さなければと思いつつも足は先に進んで行く。
登山道に覆いかぶさるようにシロヤシオが咲き溢れている。谷を見れば、そこにもシロヤシオ。時々ミツバツツジの可愛いピンク。「凄いね、綺麗だね」と言っている内に縄文ヤシオを過ぎる。まだ迷っている私に「戻るより先行ったほうが早い！」と皆の声。その通りです。

剣が峰当たりは、まだ咲き始めたばかりのようなクリーム色がかった瑞々しいシロヤシオがいっぱいで急登を忘れさせてくれる。

八海神社からは、ゴロゴロした道を慎重に下り、樹林帯の広い道に出れば大間々駐車場も近い。無事に下山出来て皆さんに感謝。きちんと膝を治して、またここに戻って来たいです。

小間々駐車場 9：15　―　大入道 10：35～11：20　―
剣が峰 12：40～13：20　― 大間々駐車場 14：40

石上山・六角牛山（ろっこうしやま）（遠野）

高 橋　忠

日　　程　令和５年５月１６～１９日

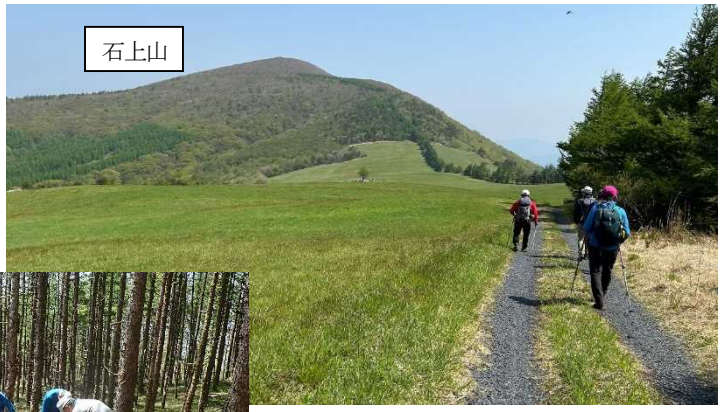
パーティ　遠藤、佐藤(實)、宮崎、内田、高橋(忠)

遠野三山（早池峰山、六角牛山、石上山）の石上山と六角牛山に行って来ました。

１６日：小見川支所２０：００発。長者原ＳＡでテン泊。

１７日：鳥居のあるメインルート（滝を眺めるコース）ではなく、南側の山谷川牧場から大垂水を経て石上山に至るマイナーなコースをとった。広く緩やかな牧場の草原の上端から落葉松の樹林帯を登り、笹藪をかき分け石上山の山頂（1,037.3m）へ。

出発 9:06
↓
石上山 10:40-11:42
↓
到着 12:52



↑ 石上山山頂 1,,037.3m

帰りの沢でイワナ釣り（残念ながら釣果０。バラしたのもあったが。）代わりにタラの芽やミズが沢山採れた。

　宿泊は、コテージランドかしわぎのコテージです。遠野市街のスーパーに買い出しに行き、コテージ内の風呂で汗を流し、今夜は焼肉パーティー。

　１８日：二日目の当初の予定は、の

んびり釣りを楽しむ班と、六角牛山（ウシ年の私と、同じウシ年の佐藤さんを誘って、牛の名の付く山へ登ろうと）へ、登る班に分かれようということだったが、結局全員で六角牛山に登ることになった。コテージから、六角牛神社を通り、岬登山口へ向かう。登山口の駐車場に車を停め、８：４０　出発。
１合目から４合目までは、森林浴を楽しみながら、緩やかな勾配を登って行く。４合目が、広い広場のようになっていて、ここでしばし休憩。
この先からは、大きな岩がゴツゴツとした岩場の急勾配が、９合目辺りまで

延々と続く。ペースがガタ落ちです。もう二日連続の山登りは、とてもきつい。

９合目当たりでようやく稜線らしく空が明るくなってきた。しばらくして山頂手前のピークに出る。目の前に山頂らしきものが・・いったん下ってまた登れば山頂かな。笹藪をかき分け、平坦になってきた辺りに、「山頂まで２００m」の看板が。ところがここから先がやたら長く感じた。やっと山頂にたどり着くと、３６０°のパノラマ！遠野盆地を眼下に、南側には昨年５月に登った五葉山が見え、北側には早池峰山など、素晴らしい眺めだ。

出発する時は、少しガスが掛かっていたので気がつかなかったが、登山口の駐車場から六角牛山が、くっきりと見える。

帰り道、近くの沢でイワナ釣りを楽しむ。釣果は７匹。　昨日釣れなかったので今日は、イワナの刺身、ホイル焼き、唐揚げが楽しめる。昨日も今日もあちこちで、九輪草の群生が見られた。

岬登山口　８：４０→六角牛山（１１：５０－１２：３７）→
岬登山口　１４：４０

コテージに戻る途中、遠野市内のスーパーで食材の買い出しをしてから帰る。コテージ内の風呂で汗を流し、イワナの刺身、ホイル焼き、唐揚げ、肉野菜炒め、ミズのコンビーフ炒め、タラの芽の天ぷら、などなど。昨日に引き続き、豪華なおかずで、夕食を楽しんだ。お酒が美味しい！！

１９日：１０時少し前にコテージを後にして、まずは、道の駅「遠野風の丘」により、それからカッパ淵へ。常堅寺の裏を流れる小川の淵にカッパが多く住んでいるというカッパ淵がある。そこで、キュウリを餌にカッパ釣りに挑戦！あいにく釣果０。帰り道、近くのカッパ茶屋でソフトクリームを食べ、ホップ畑を見ながら、遠野の民俗文化を紹介する「伝承園」を見学。園内に咲いていたクマガイソウやアツモリソウを見ながら曲り家などを見て回った。園内の土産物売場で、店番をしていた３人のお婆さんから、昨日、市内の山で熊に襲われる事件があったと聞かされた。我々も遠野市の西側と東側の山に登っていたわけだから、熊に遭遇しなくて幸いであった。とにかく今年は毎日のように熊に襲われたというニュースが出ていて、熊の被害がとても多い。気をつけねば！

↑ きゅうりを餌にカッパ釣り

↑ クマガイソウ

↓アツモリソウ

↓ 伝承園の中の曲り家

八 幡 平（２） ・ 安 比 岳

佐 藤　實

日　　程　令和５年６月６～９日

パーティ　遠藤、髙橋（忠）、内田、佐藤（實）

今年は続、八幡平その２とのこと。仲間内で大好評を博した茶臼山荘をベースに、安比岳を逍遥する計画になりました。

登りルートはアスピーテライン茶臼口からとし、まずは又「竜の目」を見るべく、見返り峠に向かう。天候は曇りがち。遊歩道の残雪は昨年より少なく、ガスまじりの中のドラゴンアイは今ひとつでした。サングラスを忘れて雪原がまぶしい。

山頂を回り、ガマ沼と八幡沼は噴火跡なのか？などと考えつつ、観光終了です。

車で登山口に戻る途中、目を付けてた所で、たけのこ採りをして、労せず上物が採れ良かった反面、ザックが重くなる。うれしい悲鳴と言うところでもあります。

茶臼山荘の弱点は、水の無い事で、今回は最初から遠藤さん、忠さんと３人で、水１０ℓを分散して持ち、山菜を採りながら歩く。唯一、雪渓のトラバースにもきれいにトレースが作られていてクリアー。

去年だけれど懐かしい、茶臼山荘に到着。見慣れたテラスに昨年は一緒だった、佐久間さんが居そうな気がした。

今回も貸切り間違いなしの広い部屋に、寝場所を陣取り、まずはコーヒーで一休み。山菜の下ごしらえなどをして、宴の準備に移る。

誰が付けたか？山菜山行の名にしおう品々と、御三方とっておきのウイスキーを囲んで、よもやま話の数々で夜が更けてゆきました。

８日　今日の予定は、安比岳です。黒谷地湿原まで３０分程ゆるやかに下り、熊の泉に水汲みに寄る。この辺は水芭蕉がきれいで、遠藤さんによれば冬眠明けの熊が良く来るそうな。「熊の泉」の名は、そんなつながりでしょうか。

源太森への道は木道があるものの洗掘が進み、そこに残雪が乗って踏み抜いたりで、歩きにくい処です。安比分岐からは比較的平坦な下りになるも、夏道は所々にしか出てない状態が続く。ただ、６月の山の楽しみは、こんなルートを縫い歩くことで、トップの遠藤さんも楽しいだろうなあと思う。

夏道が出て来て、最低鞍部から最後の登りにかかる。気になるのが山のアスパラガスとも呼ばれるナルコユリが、畑のように出ていて、帰りに採るつ

もりで山頂へ。
　程なく開けた林の中に安比岳の標示板を見付け、ここが山頂と言うことだと思う。コーヒータイムをして下山にかかる。
　先に行ってもらい、一人でナルコユリの若芽を採る。鞍部の先で皆が待っていてくれて「心配してた」との事。猫の鳴き声のようなものが何度も聞こえたと言うのです。
　遠藤さんは「熊の子供」のようで、早く帰りたかったとの事。すみませんです。来た時よりも融け崩れた残雪に足を取られながら、黒谷地に戻り、熊の泉で又３ℓを汲んで、茶臼山荘に戻り着く。
　今夜もご馳走三昧は続きます。安比の猫の声を忠さんがスマホで調べてみたら、熊の子でドンピシャリ。親が来なくて良かったと、皆で胸をなで下ろし、話の尽きない夜も又続きました。
　９日　予報では午前中、止み間なく、駐車場迄の１時間程を、雨支度フルで下山です。いつもなら絶対手を出す上物の山菜も、チラ見するだけで黙々と歩き、車に着いた。着替えはそこそこに、松川温泉に向かう。雨で見る所もなく、道の駅も昼食も去年と同じ処に寄り、帰って来ました。

↓安比岳 山頂

三 頭 山

高橋 恵美子

日　　程　令和５年６月２３日
パーティ　佐藤(實)、金井、鈴木、高橋(恵)

東京都でありながらブナの原生林が残る三頭山は、以前から気になる存在ではあった。が、高尾山ほど気軽ではなく、高速を降りた後の山道を一人で運転するのも気が重く、距離は近くても遠い山になっていた。

「都民の森」の広い駐車場には、平日にもかかわらず数台の車が止まっていた。こんなどんよりした天気の日でも登山者はいるのかな？
鞘口峠へは２０分程、売店前の舗装道を登っていく。歩き出しの微妙な傾斜の坂道が意外にキツイのだ。峠に突き当たって左折、本格的な登りになる。途中の分かれ道で「ブナの路コース」を選ぶ。周囲の森は深く、ブナのほかトチノキやカツラなどの巨木も多い。さすがに奥多摩だね。「都民の森」と言うだけあって、道や案内板は良く整備されている。

東屋「見晴らし小屋」に到着、小休止。こんな天気で何も見晴らせるものは無いが､周囲の新緑が良い｡道はここから左に下ってまた登り返すのだが、ちょっと分かりにくく真っすぐ進んでしまい、引き返す。

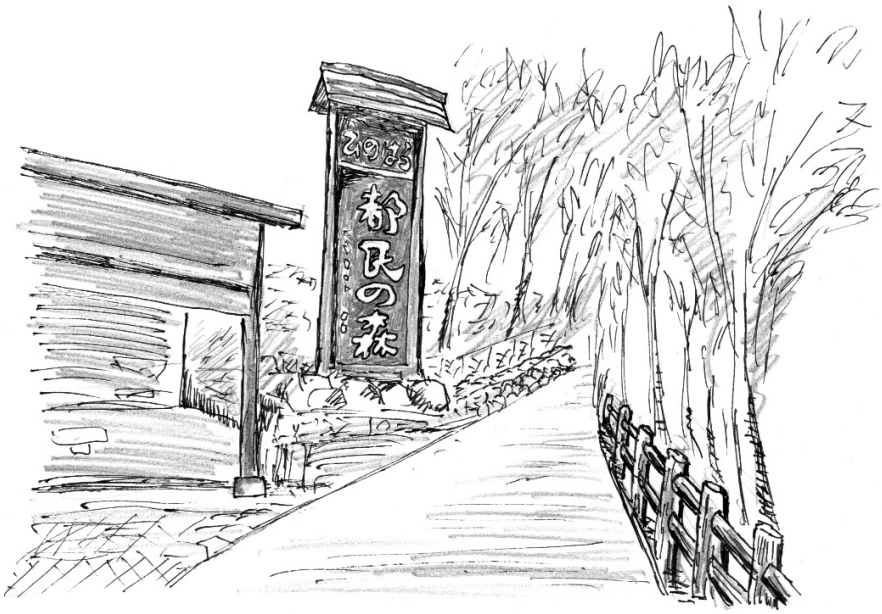
三頭山東峰にはちょっと変わった作りの展望台があり、御前山方面が望めるはず。中央峰から少し下り登り返したところが西峰。ちょっとした広場になっていて、石で出来たとっても立派な「三頭山」の標識がある。南と北が少し開けていて、晴れていれば富士山が見えるらしいが、何も見えず。ここでランチタイム。他に２組ほどのパーティが休憩中。金井さんの友人が作っているという高級なアンズを頂く、美味い。いつか、アンズの花咲く頃、畑を見てみたいと要望中。

西峰から１０分程尾根道を下るとムシカリ峠。三頭山避難小屋を見に行った金井さんを待って、ここから左折、下っていく。歩きやすい道だ。沢沿いの道の周囲にもカツラやサワグルミの巨木が多く､森の奥深さが感じられる。初めての沢登りが奥多摩だったことなど思い出しながら下ったのでした。

大滝休憩小屋を過ぎるとまもなく三頭大滝に出る。吊り橋のような展望台はちょっと揺れる。新緑の中流れ落ちる様は大滝の名に相応しい姿で、どこかの撮影隊が入っていました。大滝からの先の遊歩道はウッドチップが敷かれ、疲れた足に優しくとても歩きやすい。朝通り過ぎた木材工芸センターの前に出たので、中を覗かせていただく。ちょっとした木材の小物を作れるような体験教室が開催されているとのことでした。

三頭山山中には巨木と言われる大きな樹がたくさん有るようで、№10 までそれぞれ看板が付けられている。センターから駐車場に下る道沿いの斜面に、この森№.１の巨木「トチノキ」がありました。１番だけあってその姿は堂々としていてとても立派で、ガスの中幻想的でもありました。

珍しく、参加者４名全員が初めてだった三頭山。行ったことの無い山は、やはり新鮮味がある。そして、改めて奥多摩の良さを再認識した山行でした。



大　鳥　池　（山形県鶴岡市）

内 田 章 子

日　　程　令和５年８月１～４日
パーティ　遠藤、高橋（忠）、内田

東北地方の大雨による災害で、途中の吊り橋が渡れなくなり、中止になった昨年の計画　大鳥池―以東岳を再度計画する。
何年か前までは頻繁に行っていたコースで様子はわかっているつもりではある。が、最近はどの山も昔のイメージで出掛け、痛い目に遭っている。大鳥池までのコースタイムも長く、テント泊のため荷物も多い。楽しみの半面、不安の方が格段に大きい。

８月１日　夜出発。山行中のお天気の心配は全くないような予報だ。

８月２日　9 年ぶりの泡滝ダムで身支度をし、いよいよである。久しぶりのテント泊で、ザックが重い。遠藤さん、忠さんに比べたら半分以下だが。深いブナの自然林の緩やかな登りだったと思っていたが、昨年来の大雨の影響か、斜面が崩壊している箇所が数か所あり、小さいアップダウンも増えて、トラバースのたび緊張する。谷側は見ないようにするが、渡り終えるとホッとする。

それよりも、何よりも、暑い！とにかく暑い！あまりの上天気が恨めしい。「曇ってくれないかなあ」と何度も思う。ただ、このコースは冷たい湧き水が山から流れ出ている水場が、何ヶ所もあるのが救いである。備え付けのコップでゴクゴク飲み、タオルを濡らして首に巻き暑さを凌ぐ。

一つ目の冷水沢の吊り橋を渡り、5 合目の七ツ滝沢の吊り橋にやっとのことで着く。ほんの少し先が見えた気がしたが、まだまだこの先は急坂が待っているし、コースタイムもここから約２時間。休憩後、私のペースダウンとテント設営のため、二人に先に行ってもらうことにする。

午後１時　　沢すじの登山道を少し過ぎると、いよいよ七曲りの急坂だ。夕方までには着けるだろう、とゆっくり後を追う。

一人になって、ヤマップのＧＰＳ地図で位置確認をしてみる。いつも山では忠さんがしてくれるので、初めての挑戦だ。今更？ではあったが。出来た嬉しさと、とても「面白い！」と感じて、時々スマホを見るのが楽しみになり、そのことが…合目の標識と共に励みにもなった。

7 合目辺りで、下りて来た夫婦らしき二人連れと会う。同じ虫除けの「オニヤンマ」をつけていたのをお互いに見つけ、しばらく「オニヤンマ」談義

に花が咲く。かなり効き目あるらしい。「管理人さんが待っていますよ。頑張ってください」と。

腰かけられそうな岩を見つけては休み、ゆっくり登っていたつもりだったが、いつの間にか9合目まで来ていた。と、上から「早いね」の声。テントを張り終えて二人が迎えに来てくれた。「まだ 7 合目くらいかと思っていたよ」。早速私のザックを忠さんが背負ってくれ、飲み水をサブザックに持って来てくれた遠藤さんと、やっと平坦になってきた道を話しながら進む。見覚えのある小屋に近づきつつあるところまで来ると、木の間ごしに静かに水をたたえた大鳥池が見えた。「来たー」「着いたー」何かこみ上げるものがある。

タキタロウ小屋の前を少し下って行くと、緑の広い草むらのテン場だ。離れた水門の近くに、お一人様のテントがあるだけで、広いテン場は貸し切りのようだ。すでに、二晩の住まいのオレンジ色のテントと、荷物入れの赤いツエルトが張られていて「懐かしいなぁ」と眺めてしまった。

辺りの板や石などで食卓を作り、晩ご飯の準備にかかる。前に来ていた頃のように、水門の近くで竿を出し、おかずにイワナかニジマスを少し釣り上げる筈だったが、ここ山形県の田んぼは日照り続きの水不足で、大鳥池から放水していた。開いた水門から大きな音と波をたてて流れている。近づくと怖いほど。そう言えば、七ツ滝沢の水流も普通ではなかった。釣りを諦めて、持って来た食材で夕食の支度をし、出来たところで忠さんが小屋からビールを買ってくる。

先ずは、お疲れ乾杯。共同の上等のウイスキーを、傍らに宴会の始まりだ。淡い光を放ちながらホタルが飛び、夜空いっぱい、降るような星の下、話しが弾み、お酒も進む。さすがに日暮れと共に涼しくなり、虫もいないようで、外の空気が気持ちいい。明日の予定は？に、以東岳はパス。何の躊躇もなく、当たり前のように東沢でイワナ釣りだけに決まる。ウイスキー1 本空けたところで就寝。

8 月 3 日　昨日の疲れもあまり感じず気持ちいい目覚め。お一人様のテントは、もう無く、小屋に泊まった団体さんも、朝早くに以東岳へと発ったようだった。

ゆっくり朝食をとり、東沢へと出かける。大鳥池の畔の登山道もやっぱり崩れている場所が増えて、ロープを張ってあるところもあり、慎重に歩く。途中から河原に下り、沢靴に履き替える。以東岳への直登コースの登り口を過ぎると、流れも出てきて魚影も見られるようになる。

東沢を進み、ポイントになる箇所に着くと、遠藤さんと忠さんは、早々竿を出す。私はというと、相変わらず苦手なブドウ虫との戦いである。左手に

指サックをはめ、右手はブドウ虫をつかむハサミを持ち、竿を出すまでの時間のかかること。二人とも早くも釣り上げているというのに。

やっと遠藤さんが教えてくれたポイントへ竿を出す。一度は、根掛かりしたが、ねばっているうちにググっと手応えが。少し上げてみると何と、イワナがついているではないか。慎重に、慎重に上げて針をつけたまま二人のところへ持っていく。「釣れたの？」に、自然に顔がほころんでしまう。私にとっては久々の大物だ。

日陰を見つけてお昼のそうめんを食べ、のんびり遊んでテン場へ帰る。今日も貸し切りのようで、私たちのテントだけ。今夜はイワナのご馳走もあるし、楽しみだ。

回りの山々が赤く染まり出し、今年の夏山締めくくりの宴会の始まり。釣り上げたイワナのホイル焼き、唐揚げなど、一応食卓いっぱいに並んだ料理を前に、三人で「おいしいね」「楽しいね」と夏山最後の夜を、思いっきり楽しむ。今夜も、夜空いっぱいの星と月が大きく輝いて見える。

8月4日　タキタロウ小屋の前で、同い年の管理人さんも一緒に記念写真。暑さと戦いながらも楽しい思い出いっぱいの大鳥池を後にする。

例年にない猛暑の中、思う存分楽しみ、無事下山出来たのは、サポートしてくれた遠藤さん、忠さんのおかげです。心から、ありがとうございました。

草津白根山　毒水沢

佐 藤 健 一（記：一ノ瀬）

日　　程　令和５年９月１０日

パーティ　金井、佐藤(健)、一ノ瀬（外部参加）

10 日午前 0 時頃、登山口の近くの駐車場に車を停め、テント泊をした。軽く飲んですぐ寝ようと言っていたはずだが、あれよあれよと酒と時間は進み、結局寝たのは 2 時半ごろになっていたような気がする。軽い睡眠不足を感じながらも 6 時 50 分に登山口を出発。1 時間半ほど山道を登ったところで入渓地点に到着。私は初めての沢登りだったので、休憩がてらハーネスのつけ方やその他ザイルなど、装備についていろいろと教えていただき、8 時半時ごろから沢を登り始めた。山道を軽く登った後の足には、沢の水はちょうどいい冷たさで、とても気持ちいいものであった。

沢を登り始めてから、数時間経ったところで、歩く速さが普通の登山の時より遅いことに気付いた。やはり、登山の時とは違い、それなりに水の流れが強く、滑りやすくなっている沢を逆流している分、一歩一歩つま先まで踏ん張って歩いていたからだろう。

沢を登り切った後に自分の足を見てみたら、すべての足の指にマメができていた。そんなことは人生で初めてだった。その後数日間は歩き方が少しおかしくなっていたのは言うまでもない。

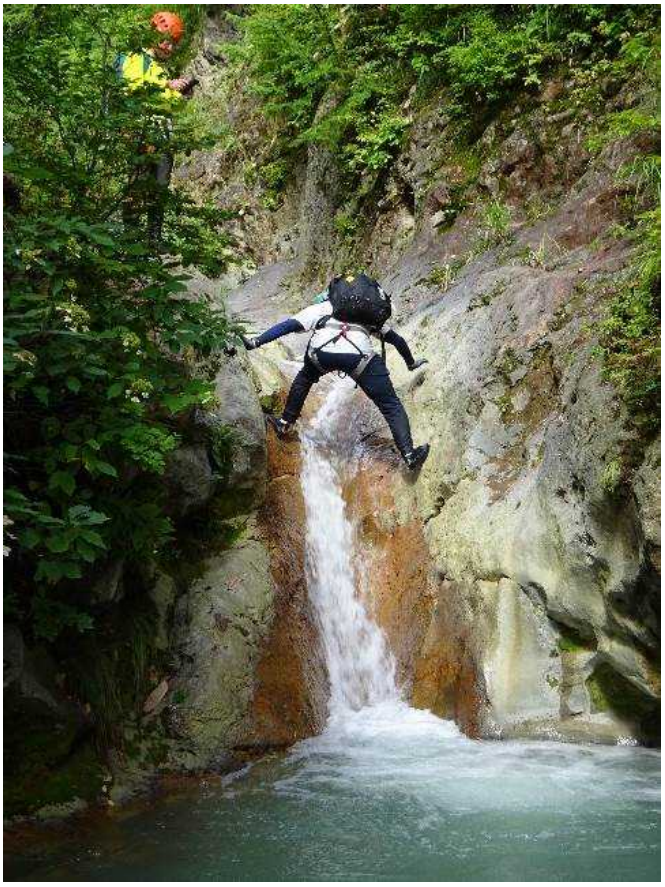


図１　落ちそうになりながらも
耐えている様子

ここの沢は群馬県の草津温泉の近くにあるということもあり、沢の途中で温泉が湧いているのが、この沢の特徴だ。沢を登っている途中に湯気が立っている所も何か所かあった。沢の途中で流れていた温泉の温度は、丁度よい温度のところもあれば、体感で50度近くはあったのではないかと感じるほど高い所もあった。途中、沢の水と温泉が一緒に流れている箇所もあり、冷たい所を進んでいたと思えば、次の一歩は高温の温泉ということも道中しばしばあった。

図２　沢の途中で湧いていた温泉

そんなこんなで入渓してから3時間ほど経った11時半ごろ、そろそろ沢も終盤ということもあり、昼食休憩をとった。丁度いい感じの温泉が湧いている所があったので、足湯をしながら前日に購入したおにぎりを食べた。やはり、非日常を感じながら食べるおにぎりはいつもとは一味も二味も違った。

昼食を食べ終え、一息ついたところでまた、沢登りを再開した。少し穏やかな傾斜の沢が続き、一時間ほど歩いたところで沢の終着点が見えた。沢の終わりは壁になっていて、その壁を少し登ったところに登山道があるといった具合だ。

図３　帰り道の風景

ここから登山靴に履き替え、最初の登山口を目指して下山した。途中、野生のカモシカを見つけたり、火山性噴気のために荒野のようになっている景色を見たりと、自然を感じながら歩いた。

下山には2時間ほどかかっただろうか。全体的に緩やかな傾斜の下り坂が

大半を占めていたので、比較的帰りは楽なほうではあったが、下山後、学校のプールの授業後の強烈な眠気を彷彿とさせるような、そんな疲労感がどっと押し寄せてきた。15 時に駐車場に到着し、登山口から車で約 5 分のところにある、西の河原露天風呂という日本有数の大露天風呂で沢登りの疲れを存分にいやしたところで、帰路に就いた。

沢登りの途中、天気が怪しくなってきた時もあったが、全員大きな怪我もすることなく帰ることができた。とても充実した一日であった。

（記：一ノ瀬）

図４　下山途中で見たカモシカ

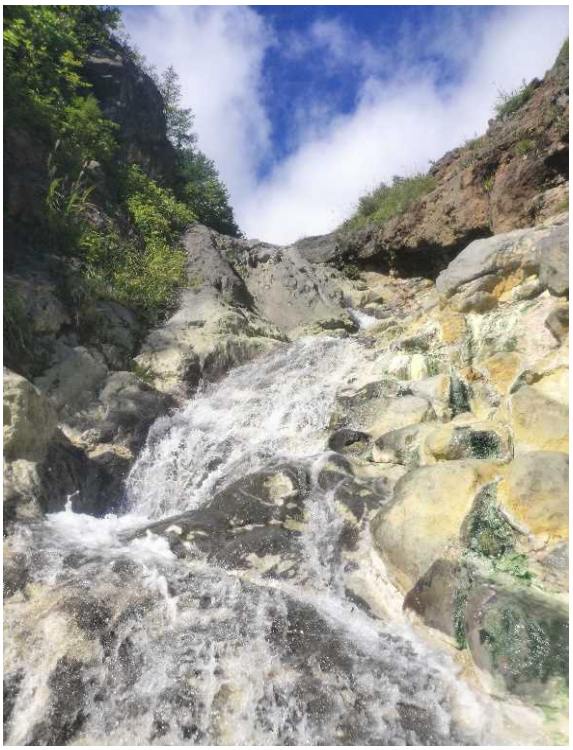


図５　いい天気だった時の写真

出羽三山への古道「道智道」

佐 藤 健 一

日　　程　令和５年１０月９日
パーティ　佐藤(健)、他３名

「道智道」（どうちみち）は今から６３０年ほど前に、道智上人という僧侶が出羽三山を参詣する人々のために開削した古道で、郷里の山形県白鷹町から湯殿山まで大朝日連峰の山麓を結んでいます。道の存在と整備に尽力されている人達がいる事をインスタグラムで知り、今回、その１／３を巡る山歩きに参加しました。歩いたのは先達の丸川さん、羽黒山伏の菅原さん、道智上人ゆかりの寺院の若住職である佐藤さん、それに私の４人です。

蔵高院

山形に前泊し、スタート地点の蔵高院という寺院に６：００集合。蔵高院は湯殿山行者であった光明海上人の即身仏が安置されている寺院で、江戸時代後期の１８５４年に入定（生きながら墓に入る事）し、「百年たったら掘り出してみよ」という遺言に基づいて昭和５３年に発掘調査が行われたそうです。その光明海上人が幾度も歩いたであろう山旅に先立ち、まずは道中の無事を祈り出発しました。

しばらくは林道が続き、光明海上人の墳墓に手を合わせるなどして進んでいきます。あいにく小雨が降ったり止んだりの天気でしたが、秋の気配が濃く凛とした森の中は快適で、二時間ほどで最高地点の茎の峰峠に到着しました。ここからは林道を外れ、よく整備された踏み跡を朝日川に向かって降りていきます。今回は今年最後の古道歩きという事で、道々整備しながら歩くため丸川さんと菅原さんはノコギリと

スコップを携えていました。倒木があればノコギリで切り開き、崩れた急斜面があればスコップでステップを切りながらの行軍。毎年夏には汗だくで草刈りをしているという事で、私はただ歩かせてもらうだけで申し訳なく、道智道への熱い想いに頭が下がりました。

スギヒラタケの群落

途中道沿いには杉の巨木が幾本もあり、その昔目印として植えられたものらしく全部数えると２３本あるそうです。出羽三山を参詣する人たちにとって良い目印になっていたのでしょう。多くの参詣者がスゲ笠をかぶり連なって歩く姿が『湯殿まで　笠の波打つ　大井沢』と詠まれています。

杉林のあちこちにスギヒラタケという真っ白なきのこがたくさん生えていて、丸川さんは袋にいっぱい採っていました。菅原さんの話では急性脳症を発症した例があったために厚労省から食べないよう注意喚起されているとのことでしたが、７５才の先達は、昔から食べているおいしいきのこなので近所のガールフレンドにも配ると言ってうれしそう。

その後大丈夫だったとは思うけど・・・・。古道の復活維持に当初から関わってきた先達は７５才とは思えないほど元気で山歩きに慣れた方でした。

途中沢を数か所渡りましたが、その中のひとつの沢床に立派な桂の巨木があり、道智道のシンボル的存在となっています。長い年月の間に幾度となく襲われたであろう沢の増水に耐え抜いてきた生命力を感じました。

桂の巨木

途中、段々になった田畑跡や石碑だけが残る廃村を通り抜けながら歩き、やがて朝日鉱泉に続く朝日川が木々の間に見え隠れするところまでたどり着きました。が、そこからが一番の難所でした。

昔は朝日川に架けられた吊り橋で対岸に渡れたようですが、現在は橋の痕跡しか残っておらずゴールの朝日川第二発電所まで朝日川右岸に付け直した迂回道を歩きました。

迂回道は渓谷の急斜面をたどっていて、転落防止に張ったトラロープを頼りにスコップで道を付け直して進んだり、沢の高巻きの様なガレ場を登ったり降りたりして進みました。この辺りは沢登りなど山慣れた人でなければ難しく、いわゆる熊野古道など名の通った古道とは全く違います。

白装束の羽黒山伏

こうして道を整備したりきのこを採ったりして歩くこと７時間、今回のゴールである発電所に１３時頃に到着しました。

四国八十八カ所を巡る「お遍路」も魅力的だとは思いますが、私には山深い「道智道」が性に合っていると感じました。来年は機会があれば１泊２日で湯殿山と月山をめざす道智道踏破ツアーに参加しようと思います。

南アルプス縦走の思い出

金 井 秀 明

登山を続けてきて強く印象に残っている山はいろいろあるが、最初に強く思い出されるのは大学二年の夏の単独南アルプス縦走だ。

夜叉神峠入口まで友人に送ってもらい出発、鳳凰三山を経て早川小屋泊。翌日は北沢峠、三日目は仙丈岳を越えて無人の両俣小屋にもぐりこみ、四日目はいよいよ憧れの白根三山へ挑む。両俣から北岳への急登はまだザックも重かったこともありとてもつらかった。北岳、間ノ岳と稜線を進み農鳥小屋天場泊。翌日は日本一の稜線に気合が入り、日の出前から農鳥岳を往復して、熊の平小屋天場へ。六日目は塩見岳を経て三伏峠泊まり。ここで、カリマーのジョーブラウンの上にくくりつけていた食糧用ダンボール箱が空いてすっきりしたのがうれしかった。縦走も残りは半分。次の日は雨の中、高山裏避難小屋まで。ボロい小屋は人が多く、所々床が抜けた二階で恐る恐る寝たのを思い出す。翌日は快晴のなか、荒川三山を楽しんで赤石岳避難小屋泊。九日目に歩いた百間洞から中盛丸山、兎岳のあたりはとても雰囲気が良く、兎岳避難小屋泊。十日目は最後の3000m峰の聖岳から、歩いてきた北の景色を振り返りつつ茶臼小屋天場泊。翌日は湿原が点在し庭園風の景色の中を光岳までのんびり歩く。最後の天場泊まりかと思っていたら光岳小屋が無人だったのでありがたく一人占めで宿泊。ここからは一気に寸又峡温泉まで下山のつもりだったが寸又川林道が長く、食糧が尽きたなかで、途中でもう一泊したのはつらかった。次の日やっと寸又峡温泉に到着。はじめての長い縦走を終え、充実感でいっぱいだ。

この頃は山仲間たちがそれぞれ南や北アルプス、八ヶ岳の縦走をしたり、長野県の県境一周を目指してる奴までいて、刺激を受けていた。しかし、そういった友人たちも卒業して就職、結婚とかのうちにだんだん山からは足が遠のいてしまう。久しぶりに会って自分が最近登った山の話などしようものなら、まだ山なんか登っているのか、といった冷たい反応が返ってくる始末。山登りは卒業して社会人生活に適応していくのが現代人で、いつまでもずるずると登山しているのは進化していない人間みたいに思えてしまう。まあ、進化していない原始人のままでいいから、これからもずるずると登っていきたい。そういえば、この南ア縦走を書いていて、最後の光岳からの下りから眺めた大無間山、小無間山へ憧れていた気持ちを思い出した。他にもまだまだ行きたい山はたくさんあるから、仕事をリタイアしたあとが楽しみだ。

思い出の山　　分水嶺の山を歩く

古 川 進 一

《白毛門から清水峠》

白毛門から朝日岳を通り、ジャンクションピークから清水峠、そして湯檜曽川を下って土合に至るコースを歩きました。

松ノ木沢のピークから白毛門山頂にかけての尾根は、谷川岳を正面に見て歩くコースです。特にマチガ沢、一ノ倉沢、幽ノ沢の眺めは迫力があって素晴らしかった。以前登った一ノ倉沢南陵の岩登りが思い出される。その時一緒に登った桜井さんは故人となられ、良き思いでとなっています。

朝日岳からは湯檜曽川の源流付近がよく見え、蓬峠にかけて陽に照らされて光った笹原がとても美しかった。

ジャンクションピークからは、巻機山に続く利根水源の山々がよく見え、登りたくなった。清水峠には大きな鉄塔が立ち、日本海側で発電された電力を関東地方に送る送電線が多数乗越している。この峠が分水嶺で、北側に降った雨は清水側の登川に流れ、魚野川へと下り、日本一の大河・信濃川に合流して日本海側へと流れて行きます。

土合から歩き出して土合に戻るこのコースはとても長く、１日で歩くには少しハードでした。この時同行してくれた森谷さん、樋口さんも故人となられてしまいました。天気に恵まれ、とても良い山行でした。

《恋ノ岐川から平ヶ岳》

夏山合宿で登った恋ノ岐川の沢登り山行が、今でも忘れることは出来ません。沢の中で一泊し、焚き火を囲んでの山の話は最高でした。滝の水しぶきを浴びたり、ナメを歩いたりの遡行はとても楽しかった。小さいサイズではありましたが、イワナも釣れて良かったです。

最後、登山道のある尾根上に出るまでのネマガリダケの中の直登は、とてもつらく大変でした。ここから一登りで姫の池に着く。さわやかな風が池の表面を吹き抜け、小さなさざ波上に平ヶ岳が見えた。名前の通り本当に平らな山だった。平ヶ岳沢源流のテント場に泊まり、２日目は無事に終わった。

３日目の朝、夜明けを待って平ヶ岳山頂に行く。平らな低い針葉樹林の中にあり、山頂らしくなかった。少し離れた所から展望を楽しむ。尾瀬の山、越後の山、上越の山々が良く見えた。展望を楽しんでから下台倉山への長い尾根を下り、平ヶ岳登山口に下山する。

平ヶ岳に降った雨は北側の只見湖に下り、只見川から阿賀野川、そして日

本海へと流れる。南西側に降った雨は奥利根に下り、本流利根川から太平洋へと流れます。３日間天気に恵まれ、とても楽しい山行でした。

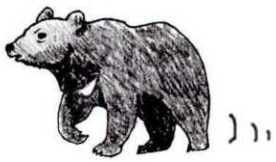
熊に会ったらどうするか

古 川 進 一

（一）立ったまま大声で助けを求める。
（二）地面に寝て死んだ振りをする。
（三）走って逃げる。
（四）立ち止まったまま話しかける。
（五）木に登る。
（六）静かに後ずさりする。
（七）荷物を置いて時間を稼いで逃げる。
（八）四つん這いになって吠える。

岩波新書：「陸上動物学入門」より

皆さんだったらどうしますか？
予防として、笛、熊鈴、爆竹、ラジオ等を持って行くと良い。
しかし、人間が熊の領域に入り込み過ぎていることが問題です。
今年は山に熊の餌が不足しているので、里に出てくることが多いのです。
十分に注意して行動するようにお願いします。



知らなかった郷土史

宮 崎　睦

低山には山城となっていた山も多くあり、いくつかの城跡の有る、宝篋山、岩櫃山等々の山にも登りました。

以前から歴史が好きで、ＮＨＫの大河ドラマや歴史の番組をよく見ていたので、公民館の地元の歴史を知る教室や、最近静かなブームになっている山城の見学ツアーに参加すると、今まで知らなかった郷土史の凄いことに驚かされました。

１　東北地方への内陸航路

中世は道路が整備されてなく、大量の物資は陸路での搬送は困難なため、船による輸送で物資を搬送していたそうです。

航海技術も発達していなかったので沿岸近くを進む航路でしたが、銚子沿岸は岩礁が多く、沖合には鹿島灘で海の難所であるため航海するのは難しく、船が難破し漂着すると船の積み荷は漂着地の住民が自らの物にしてしまって良いという習慣があったそうです。

そして当時の関東平野は、香取の海と呼ばれる巨大な湖を中心に湖や沼があちこちに存在する、水郷地帯（クリーク）になっていたそうです。

そのため、横芝光町の栗山川河口から、多古町と匝瑳市の堺に有る借当川を遡上し、椿の海を経て東庄町か小見川の黒部川まで陸越えして香取の海に出て、北上し那珂川河口から太平洋に出る航路になっていたそうです。

航路流域は重要な場所で有るため、数多くの山城が存在したとの事で、宅地造成や畑となってしまった所も有りますが、今でもかなりの城跡を見学することができます。

山城は石垣や天守閣が有るのではなく、土を盛り上げた土塁や、掘り下げた空堀の跡が有るだけですが、高台に作られているので細かいアップダウンが有り、変化に富んでいます。

土の上を歩くので、登山に行けない時の体力作りに、中世の関東武士が一族郷土を守るため、いかに工夫して城を作ったかを想像し、ドキドキワクワクしながら資料持参で歩いてみてください。

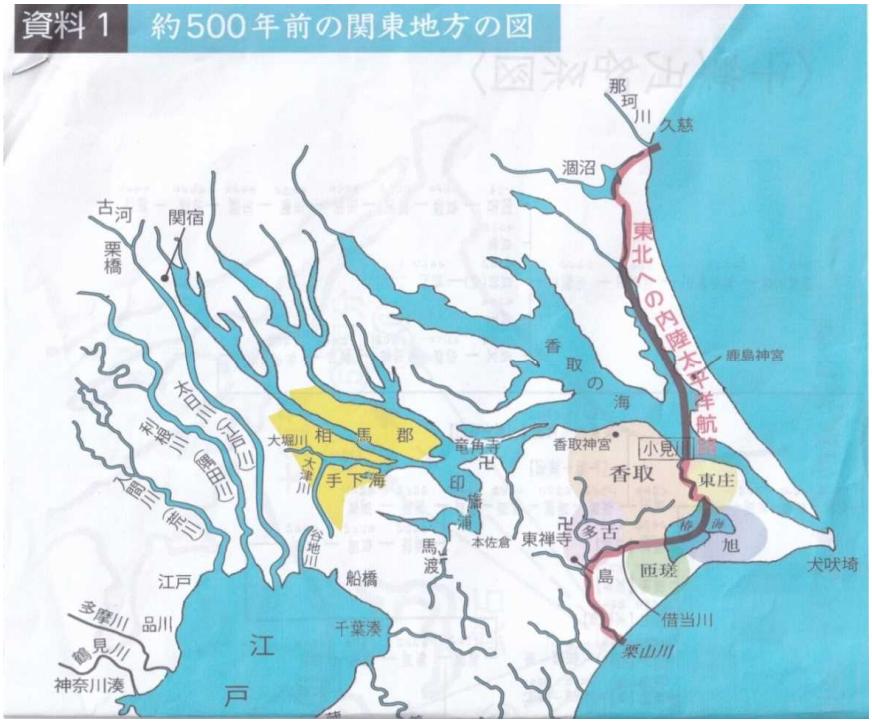
山城の見学には、蛇ややぶ蚊がいなくなり、草も枯れてくる１１月から３月頃までがシーズンです。

多古町の並木城は１１月に、山開きを真似て、令和４年から全国初めてと言われるお城開きが有ります。

神社仏閣の御朱印、鉄道駅の鉄印と同じような御城印というものがあり、

千葉県の山城だけで100箇所の御城印が発行されています。
　御城印は道の駅等で販売され1部300円で購入できます。
２　江戸時代にキリスト教以外にも禁制となった宗教があった。
　日蓮宗不受不施派は寛文５（1665）年から明治９年まで禁制となりましたが、信者は隠れ（潜伏）キリシタンの様に信仰を守り続けました。信仰が発覚し弾圧され流罪や入牢死した人もいた様で、今も多古町島地区に成等山正覚寺が不受不施派の寺院として有り、信仰が守り継がれています。
　島地区は水田の中の小高い丘になっていますが、中世の頃は志摩城で栗山川と借当川の合流する付近に有るので、水郷の中に浮かぶ小島の城になっていたと思われます。
　船着き場跡も有り、道路も曲がりくねり交差路は変則的になっており迷路で、宅地の一部には土塁も残っています。

参考ＨＰ
１　匝瑳市城郭保存活用会　２　多古城郭保存活用会　３　歴×トキ　山城ガールむつみ　４　余湖くんのお城のページ
書籍
１ 東総の城郭と居館跡（秀英社）　２ 廃城をゆく１～５号（イカロス出版）



ふ み あ と

令和２年

11 月 4～6 日	鏡山（西会津）・・・・・・・・・・	遠藤、宮崎、内田、高橋忠
13 日	篠井連山（宇都宮）・・・・・・・	鈴木、佐久間、高橋恵
16 日	宝篋山（筑波）・・・・・・・・・・	宮崎
23 日	生瀬富士・月居山（奥久慈）・・・	鈴木、高橋恵
25 日	両崖山（足利）・・・・・・・・・・	宮崎、佐久間、高橋忠
12 月 3～4 日	高谷山・夜叉神峠・・・・・・・	遠藤、宮崎、内田、高橋忠
11 日	伊豆が岳（奥武蔵）・・・・・・・	鈴木、高橋恵
13～14 日	宇都宮アルプス・・・・・・・・・	宮崎
26 日	鋸山・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋恵、佐久間、鈴木 武内

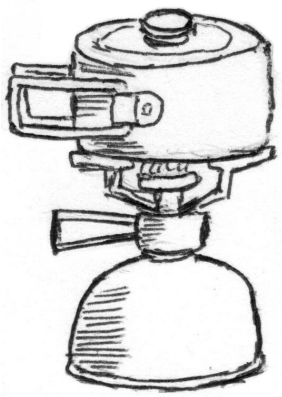
令和３年

1 月 3 日	宝篋山（筑波）・・・・・・・・・・	宮崎
7 日	宝篋山（筑波）・・・・・・・・・・	鈴木、高橋恵、他１名
14 日	高宕山（房総）・・・・・・・・・・	宮崎
2 月 3 日	津森山・人骨山（房総）・・・・・	宮崎
8 日	御殿山（房総）・・・・・・・・・・	鈴木、高橋恵
22 日	大小山（足利）・・・・・・・・・・	鈴木、高橋恵
3 月 11 日	御殿山・大日山（房総）・・・・・	宮崎
25～26 日	北横岳・・・・・・・・・・・・・	佐藤實、鈴木、高橋恵
26 日	鶏足山・焼森山（笠間）・・・・・	宮崎、内田、佐久間、髙橋忠
4 月 1 日	高峯（桜川市）・・・・・・・・・・	鈴木、高橋恵
1 日	横根山・都室山（高萩）・・・・・	宮崎、内田、佐久間、遠藤、 髙橋忠
6 日	筑波山・・・・・・・・・・・・・	宮崎
25～26 日	薬師岳・備前楯山（日光）・・・・	宮崎、他１名
5 月 10 日	赤城山（駒ケ岳～篭山）・・・・・	鈴木、竹内、高橋恵
13～15 日	岩櫃山（群馬）・・・・・・・・・・	宮崎
24～25 日	高原山大入道・・・・・・・・・・	宮崎
30～31 日	地蔵岳（飯豊）・・・・・・・・・・	金井、他２名
31 日	高原山（大入道～剣が峰）・・・・	鈴木、高橋恵
6 月 1～3 日	地蔵岳（飯豊）・・・・・・・・・・	遠藤、佐藤實、内田、佐久間、 高橋忠

9 日	帝釈山・・・・・・・・・・・・・	宮崎
11 日	茅が岳・・・・・・・・・・・・・	鈴木、高橋恵
23 日	裏磐梯 雄国沼・・・・・・・・・・	宮崎
7 月 12 日	尾瀬 大江湿原・・・・・・・・・・	宮崎
17～18 日	大滝沢（吾妻）・・・・・・・・・・	金井、佐藤健、高橋恵、鈴木
23～24 日	雄国沼・・・・・・・・・・・・・	鈴木、高橋恵
9 月 10～11 日	中ノ沢（那須）・・・・・・・・・・	金井、佐藤健、鈴木
24～25 日	北ア 小蓮華山・・・・・・・・・・	佐藤健、他１名
10 月 14～15 日	安達太良山・・・・・・・・・・・	佐久間、鈴木、竹内、宮崎
19 日	尾瀬 大杉岳・上田代・・・・・・	宮崎
27～29 日	明神ヶ岳（箱根）・・・・・・・・・	遠藤、宮崎、内田、佐久間、高橋忠
11 月 7 日	伊豆大島 三原山・・・・・・・・・	宮崎
17 日	石裂山（栃木）・・・・・・・・・・	宮崎、佐久間、鈴木、竹内
25 日	宝篋山（筑波）・・・・・・・・・・	宮崎
12 月 1～3 日	日向山・・・・・・・・・・・・・	遠藤、佐藤實、宮崎、内田、佐久間、高橋忠
15 日	大小山・妙義山・・・・・・・・・	宮崎、武内、高橋忠
令和４年		
2 月 1～ 2 日	日光 雲竜渓谷・・・・・・・・・・	宮崎
7 日	高宕山（房総）・・・・・・・・・・	宮崎
21 日	安房高山（房総）・・・・・・・・・	宮崎
3 月 16 日	霧降高原 丸山・・・・・・・・・・	宮崎
25 日	笠石・寂光不動（房総）・・・・・	宮崎
4 月 6 日	熊の山・盛金富士（奥久慈）・・・	佐久間、鈴木、宮崎
13 日	宝篋山（筑波）・・・・・・・・・・	宮崎
28 日	雨巻山（益子）・・・・・・・・・・	宮崎
5 月 5～ 7 日	会津駒ケ岳・・・・・・・・・・・	宮崎
11～13 日	五葉山（岩手）・・・・・・・・・・	遠藤、佐藤實、内田、佐久間、高橋忠
18～19 日	御堂山（下仁田）・・・・・・・・・	宮崎
6 月 3～ 4 日	中禅寺湖 千寿ヶ浜・・・・・・・	宮崎
4 日	ミツモチ山（高原山）・・・・・・	金井、佐藤健、高橋恵、鈴木
7～10 日	八幡平（恵比須森・大黒森）・・・	遠藤、佐藤實、内田、佐久間、高橋忠

29～30 日	丸山・半月山（日光）・・・・・・	宮崎
7 月 9 日	薄葉沢（常陸太田）・・・・・・・	金井、佐藤健、高橋恵、鈴木
23 日	東黒沢（谷川）・・・・・・・・・	金井、他２名
8 月 22～23 日	芦沢（日光）・・・・・・・・・・	宮崎
9 月 17 日	茶臼岳・朝日岳（那須）・・・・・	佐藤健、他５人
26 日	日和田山（埼玉）・・・・・・・・	鈴木、高橋恵
28～29 日	下戸倉沢（日光）・・・・・・・・	宮崎
30～ 2 日	北穂高岳・・・・・・・・・・・	佐藤健
10 月 14 日	安達太良山・・・・・・・・・・	鈴木、高橋恵
20 日	帝釈山・・・・・・・・・・・・	宮崎
11 月 1～3 日	高陽山（西会津）・・・・・・・・	遠藤、佐藤實、宮崎、内田、高橋忠
2 日	ミツモチ山（高原山）・・・・・・	鈴木、高橋恵
16 日	月居山（奥久慈）・・・・・・・・	鈴木、高橋恵
18 日	篭岩山（奥久慈）・・・・・・・・	宮崎
27 日	難台山（笠間）・・・・・・・・・	宮崎
12 月 1～2 日	物語山（下仁田）・・・・・・・・	遠藤、佐藤實、宮崎、内田、高橋忠
7～ 9 日	十二ヶ岳（群馬）・・・・・・・・	宮崎
30 日	宝篋山（筑波）・・・・・・・・・	宮崎
令和５年		
1 月 9 日	雨引山（茨城）・・・・・・・・・	鈴木、高橋恵
13 日	高鈴山・神峰山（日立）・・・・・	宮崎
2 月 15 日	筑波山・・・・・・・・・・・・・	鈴木、佐久間、高橋恵
16～17 日	火起山・竈山（赤城）・・・・・・	遠藤、佐藤實、内田、高橋忠
22 日	烏場山（房総）・・・・・・・・・	高橋恵、鈴木、竹内、宮崎
3 月 22 日	鶏足山（笠間）・・・・・・・・・	宮崎
29 日	横根山・都室山（高萩）・・・・・	佐久間、鈴木、竹内、宮崎
4 月 13～14 日	日暮山（下仁田）・・・・・・・・	遠藤、佐藤實、内田、高橋忠
14 日	古賀志山・・・・・・・・・・・・	佐久間、竹内、宮崎
21～22 日	篭山（赤城）・・・・・・・・・・	宮崎
5 月 1～ 3 日	燧ケ岳・・・・・・・・・・・・・	宮崎
2 日	霊山（福島）・・・・・・・・・・	佐藤健
3～ 4 日	木曽駒ケ岳・・・・・・・・・・	佐藤健、他１名
11～12 日	ミツモチ山（高原山）・・・・・・	宮崎

26 日	高原山 大入道・・・・・・・・・・	高橋恵、佐久間、鈴木、宮崎
16～19 日	石上山・六角牛山（遠野）・・・・	遠藤、佐藤實、宮崎、内田、高橋忠
6 月 6～9 日	八幡平・安比岳・・・・・・・・・	遠藤、佐藤實、内田、高橋忠
23 日	三頭山（奥多摩）・・・・・・・・・	佐藤實、金井、高橋恵、鈴木
7 月 5 日	モーカケ沢（檜枝岐）・・・・・・	宮崎
8 月 1～ 4 日	大鳥池(東沢)・・・・・・・・・・・	遠藤、内田、高橋忠
5～ 6 日	立山～剣御前・・・・・・・・・・	佐藤健、他８名
13 日	一切経山（吾妻）・・・・・・・・・	佐藤健
23～24 日	戦場ヶ原・・・・・・・・・・・・	宮崎
9 月 9～10 日	毒水沢（草津）・・・・・・・・・・	金井、佐藤健、他１名
17～18 日	大滝沢（吾妻）・・・・・・・・・・	金井、他１名
10 月 9 日	出羽三山古道 道智道・・・・・・	佐藤健、他３名
18～19 日	篭ノ登山・・・・・・・・・・・・	遠藤、佐藤實、佐久間
31～ 2 日	鏡山（西会津）・・・・・・・・・・	遠藤、佐藤實、高橋忠、内田



表紙のことば

金 井 秀 明

まるまると太ったホシガラスです。ウズラやコジュケイじゃありません。

北八ツの高見石小屋に居ついているホシガラスは小屋のアイドル的存在で、この鳥目当ての客がわざわざ来るほどの人気者です。しかし、登山客からたくさんおやつをもらえるのですっかり肥満体型になってしまいました。

穂高の頂上などでも見かけるギャアギャアうるさいこの鳥は、本来はスマートな姿をしていますが、高見石ではすっかり堕落してしまったようです。我が身を振り返って反面教師として気を引き締めなければならないでしょう。

今や小屋の名物にもなっているホシガラスですが、エサを欲しがってガラス窓をつついて割ってしまうこともあり、小屋のご主人は困っているそうです。

ここ数年、コロナ禍で登山客がだいぶ減ったと聞いているので、このホシガラスも少しはダイエットできたかと気になるところです。

うちの娘がこの小屋でバイトしていたので思いついて書きました。

新 人 紹 介

氏　　名　：　小 宅 勝 美
職　　業　：　公務員
生年月日　：　昭和 41 年 10 月 20 日
趣　　味　：　スノーサーフィン（サーフィン系のスノーボードです・チューンナップもしますのでワキシングでお困りの際はお声掛けを）
登 山 歴　：　計 20 年位
行きたい山：　高山植物と紅葉が綺麗な山ならどこでも
入会の動機：　経験豊かな皆さんから山のお話を色々お聴きしたかったから。

編　集　後　記

コロナの影響で、会全体の山行も少なく、会報も３年ぶりの発行となった。思い出しながら、３年分の紀行文を書くのに苦労したが、何とか区切りの会報を発行できてホットしています。

行ける山も、体力に合わせ、低山化している。何が何でも山頂にという気も無くなり、のんびり歩き、酒を飲んで、楽しく過ごそうという今日この頃である。

高　橋　忠

コロナ禍は落ち着いたけれど、ウクライナやガザで世界は大変です。山に出かけることのできるありがたさを感じます。

金　井　秀　明

八幡平の安比岳で、親熊と一緒にいるであろう小熊の鳴き声を間近で聞いた。一度ならず、二度も。今思うと恐ろしい。また、君ヶ浜の林で、角の立派な鹿と会い、林を抜けるまで後ろから着いて来られてしまった。
今年は、動物絡みの貴重な体験をした。

内　田　章　子

10 月に、令和になってから初めて外泊しました。まだ「介護」というほど深刻じゃないけど、「楽しい」と感じなければ外へ出ても意味ないですしね。

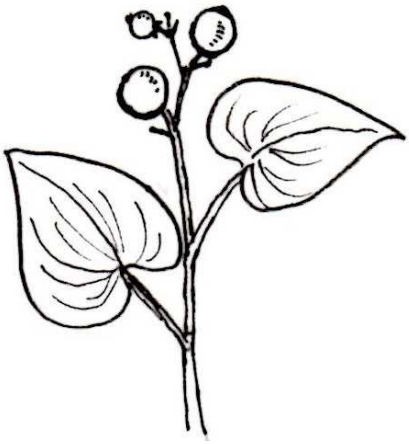
小 山 田　泰 幸

久しぶりの原稿書きに四苦八苦。頭も体も使う生活をしないとダメですね！

高　橋　恵 美 子

令和５年度　役員

会　　長	古 川 進 一	
副 会 長	金 井 秀 明	
事 務 局	金 井 秀 明	
会　　計	内 田 章 子	永 井 陸 夫
庶務連絡	佐 藤 健 一	
装　　備	金 井 秀 明	
会報編集	金 井 秀 明	高 橋　忠　小 山 田 泰 幸
	内 田 章 子	高 橋 恵 美 子



銀嶺山岳会ホームページ

「ぎんれい７７号」

発　　行　〒288-0837
千葉県銚子市長塚町３－１４８
銀 嶺 山 岳 会
TEL. 0479(22)7698

http://ginrei288.xsrv.jp/

編　　集　編集委員
発行月日　令和５年１２月９日
印　　刷　フルノライフベスト株式会社

INREI

2020.11月～2023.10月